

重 要

お客様登録カードご返送のお願い

平成16年からチャイルドシートのリコール制度が始まります。
付属の登録カードにお名前、ご連絡先などを記入の上、弊社宛にご返送ください。
ご返送いただいたお客様には、万一お買い上げいただいた製品に問題があることが判明してリコールを実施する場合に、弊社から直接その内容をお知らせし、**必要な改善を実施し、製品を安全な状態にいたします。**

この登録システムは、国土交通省が推奨しています。

安全にチャイルドシートをご使用いただくために是非必要ですので、ご協力のほどよろしくご願ひいたします。

なお、ご連絡先などの登録内容に変更が生じた場合は、必ずご連絡ください。(下記参照)

登録前にお客様登録カードが見あたらない場合は、弊社サービス係(P58参照)までご連絡ください。

※ご登録いただいた内容は、カードに記載された目的のみ利用いたします。

お客様登録カードは、チャイルドシート育英保険登録(無料)、保証書、弊社アンケートなど、他の目的も兼用いたしておりますので、カードの内容をご確認いただいた上で、お客様が必要とされる範囲で記入してください。
(同封のプライバシー保護シールを貼り付けて、ご投函してください。)

なお、チャイルドシート育英保険の内容に関しては、付属の説明文をご確認ください。

〈アフターサービスについての連絡先〉

アップリカ・チルドレンズプロダクツ株式会社

〈電話連絡先〉

お客様サポートセンター TEL **0120-415-814**

受付時間：AM10:00～PM5:00(土、日、祝日、当社所定休日を除く)



2000/01
UNIVERSAL(汎用)
~18kg
自
C-2002

赤ちゃん医学から生まれた

Aprica

ベビー&チャイルドシート・ベッド

マシュマロ J フィックス S

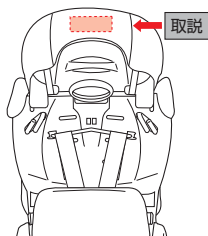
取扱説明書

体重2.5kg以上18kg以下のお子さま用です。
自動車には、**3点式シートベルト**のみ装着できます。

このたびはアップリカ製品をお求めいただき、ありがとうございます。
この取扱書には、チャイルドシートの正しい取扱い方法と、手入れについての説明がされています。

マシュマロJフィックス S を改造したり、本取扱い説明書の取扱い方法以外の方法で使用されますと、衝突等の緊急時に、お子様の安全を守るための機能が充分発揮できないだけでなく大変危険です。

ご使用になる前に、よくお読みのうえ正しくお使いください。
また、本書は必ずチャイルドシート取説ポケットの中に保管してください。
本品を他のお客様に譲りになるときは、必ず本書も併せてお渡しください。



使用前の確認

★必ずお読みください。衝突や急ブレーキ等の緊急時にチャイルドシートの性能を発揮させるために必ず守ってください。

- ①チャイルドシートのベルト取り付け位置をお子様の体格に合うように調節する。
- ②チャイルドシートは、お車の座席にシートベルトで緩みのないように、しっかり固定する。
- ③お子様をチャイルドシートに、正しく乗せる。

★「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
注意	誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

目次

使用前の確認	1
●シートベルトの種類 ●シートベルトの取り付け位置について ●取り付け出来ない座席	
使用上の注意	7
●危険 ●警告 ●注意	
禁止事項	14
●禁止 ●警告ラベルについて	
お子様の大きさ	15
●お子様への心遣い	
各部の名称	17
●各部の名称 ●特徴	
緊急の場合には	18
●緊急の時 ●バックルからタンクが抜けない時	
使用前の点検・準備	19
●点検 ●ベルトロックの使用方法 ●ベルトの長さ調節 ●肩ベルト通し穴の位置 ●肩ベルト通し位置変更の方法 ●レッグサポートの使用方法	
操作方法	25
●本体の方向転換の方法 ●スタンドの使用方法 ●フィットスペーサーの使用方法 ●リクライニングの方法 ●本体取り付け方向によるリクライニング調節 ●マモールS (669) ●マモールS (828)	
車体への取り付け方法・お子様の乗せ方	33
●後部座席横向け ●後部座席後ろ向け ●後部座席前向け	
日常のお手入れ方法	52
●シートカバーのはずし方 ●芯材の取り外し方 ●シートカバーのお手入れ ●樹脂部分のお手入れ ●シートカバーの取り付け方 ●動作チェック ●保管方法 ●廃棄方法 ●アフターサービスについて	

シートベルトの種類

★あなたのお車に付属の取扱書をご覧になり、シートベルトを確認して使用してください。

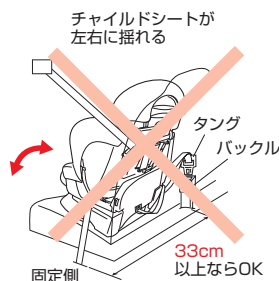
3点式シートベルトのみ装着できます。

- △ 危険：パッシブシートベルト（座席に座りドアを閉めると自動的にシートベルトを装着してくれる）の座席では使用できません。
- △ 危険：2点式シートベルトのついた座席には、チャイルドシートを固定できないので使用できません。
- △ 危険：3点式シートベルトの上下取付部が共に巻き取り式の座席では、使用できません。
- △ 危険：シートベルトが、取り付けられていない座席では使用できません。

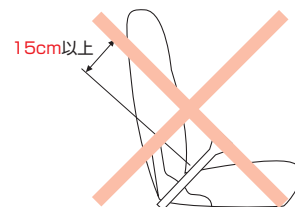
シートベルトの種類	シートベルトの特徴	取り付け上の注意点
ELR(緊急ロック式巻取装置)付きシートベルト	通常はベルトが自由に入出力し、急ブレーキ、衝突等の緊急時だけロックされます。	ベルトをゆるやかに引き出しチャイルドシートを固定します。
A-ELR(チャイルドシート固定機構)付きシートベルト	通常は、ELR付きシートベルトとして機能します。ベルトをすべて引き出すと、引き出し方向にシートベルトが動きません。	ベルトをすべてもどすと、チャイルドシート固定機構が解除されます。必ずベルトクリッパーを使用してください。
ALR(自動ロック式巻取装置)付きシートベルト	ベルトを引き出す途中で手を止めると、ベルトが自動ロックされます。	ベルトを充分引き出しチャイルドシートを固定します。必ずベルトクリッパーを使用してください。
NLR(非ロック式巻取装置)付きシートベルト	ロック機構がなくベルトをすべて引き出し、長さ調節して使用します。	ベルトをすべて引き出した状態から、チャイルドシートに長さ調節して固定します。
手動調節式シートベルト	巻取装置のないシートベルトで長さ調節して使用します。	チャイルドシートに長さ調節して固定します。

- △ 注意：プリテンショナー付きシートベルト(強い衝撃を前面から受けたときにシートベルトを引き込む)で強い衝撃を受け作動した後はそのままチャイルドシートを使用せずにお車の購入店で点検を受けてください。

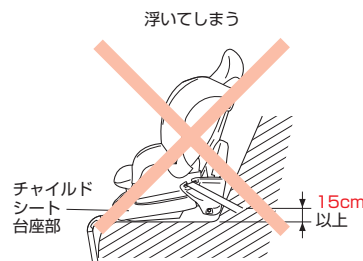
シートベルトの取り付け位置について 次の座席には取り付けできません。



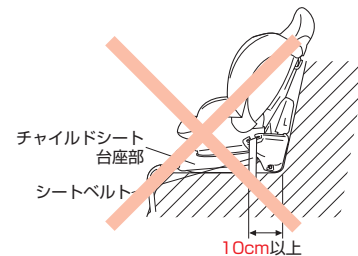
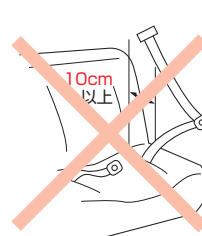
*お車のシートベルトの取り付け幅が、**33cm未満**の座席。



- *バックル側のベルトが樹脂製等で固く、バックル位置が高い座席。(RV車に多い)
- *座面より**15cm**以上高いと、チャイルドシートのベルト固定ガイドに干渉し、チャイルドシートが固定できません。



*シートベルトの取り付け位置が高い座席。座面より**15cm**以上の座席。(2ドア車に多い)



*お車のシートベルトのバックル、及び腰ベルトの取り付け位置が前方によっている座席。背もたれより**10cm**以上前方で、シートリクライニング機構のない座席。

取り付けできない座席

- ★あなたのお車の座席を確認してください。
- ★該当する場合には、他の座席に取り付けてください。

a. 座席の条件について確認してください。次の座席には取り付けないこと。



* お車の進行方向に対して後ろ向き、及び横向きの座席。(RV車対座シート、ジープ等)

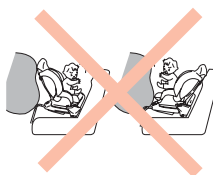


* 特別な目的のために使用される車両の座席。(スポーツ車、レース車等)



* 2点式シートベルトのみの車両。

* チャイルドシートを取り付けるお車のフロアに、シューズボックス、ヒューズボックス、収納型シート、コンソールボックス、スペアタイヤの収納スペース等があり、これらがレッグサポートの下に敷かれるようなフロアにはチャイルドシートを取り付けない。



* 前シートの中央座席(前席ベンチ仕様車)や、お車の運転に支障を及ぼす座席。

* SRSエアバッグが装備された座席。

* チャイルドシートにより、バックミラー、ルームミラー等によって得られる視界の妨げとなる座席。

* これらの座席ではベッドでの使用ができません。

* これらの座席では後ろ向きでの使用ができません。



* バックルが車両外側にある座席。



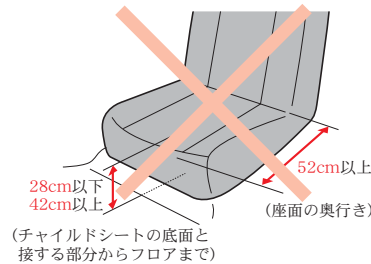
* 後部中央の座席。(3点式シートベルトも不可)



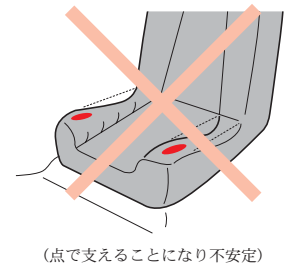
* シートベルトの長さが極端に短い座席。

* お車の腰ベルトが、座席の中間部から出ていて、座席後方及び中央部が落ち込んでいる座席。(バケットタイプ・セミバケットタイプの座席)

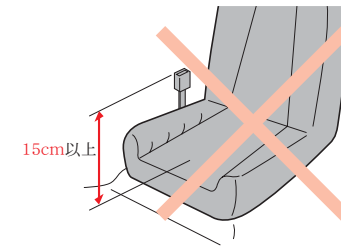
b. 下記の条件の座席には、取り付けできません。



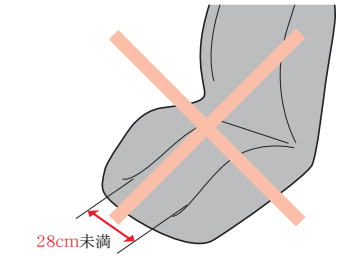
* 座面の高さが28cm以下、42cm以上、の座席のお車。
* 座面の奥行きが52cm以上の座席



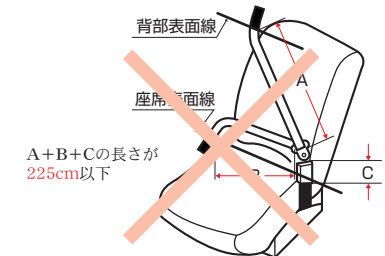
* 大腿部、臀部をホールドするために落とし込んである座席で、チャイルドシートの底面が座席に接する部分が一部の座席。(市販座席に取り替えられた車両、スポーツ車、レース車等)



* 臀部をホールドするため落とし込んである座席で、チャイルドシートが落ち込むため、バックル位置が座面より15cm以上高くなる座席。
* チャイルドシートの台座が落ち込むため、バックル位置がベルトガイドよりも高くなり固定できない。(通常は、バックルとベルトガイドが同位置にあります。)



* 座席のフラット面が狭く28cm未満の座席。(市販座席に取り替えられた車両、スポーツ車、レース車等)



* シートベルトの長さ(A+B+C)が225cm以下の座席は取り付けできません。(上図で測定の場合、スライドができる座席は1番後ろに引いた状態で行なってください。)

c. その他、チャイルドシートを固定できない座席。

使用上の注意 ★お子様のために、お読みの上必ず守ってください。

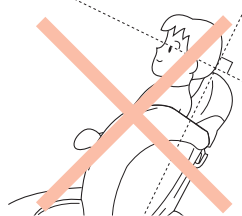
★お子様は後席へ、助手席ではお子様の動作が気になり運転の妨げになるだけでなく、運転装置にさわり事故につながる恐れがあります。

△ 危険 (きけん)

DANGER



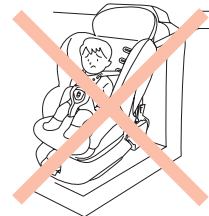
体重 2.5kg 以上～18kg 以下、身長 49cm 以上～105cm 未満のお子様以外に使用しない。



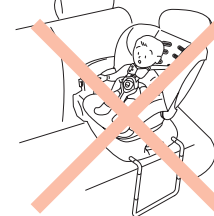
身長が 105cm 未満であって、も頭部重心位置 (耳の上端部) がヘッドレストの先端部から上に出る場合は使用しない。



チャイルドシートが確実に固定できない座席では使用しない。



レッグサポートをはずして使用しない。



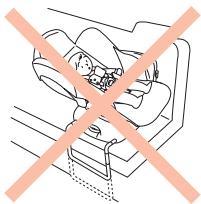
ベッド状態以外で横向きに使用しない。



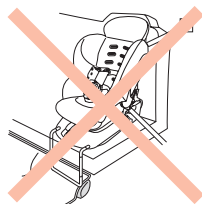
チャイルドシートのバックルをはずして使用しない。

— 衝突や急ブレーキ等により生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —

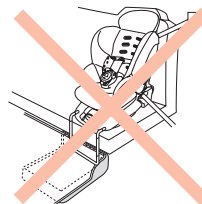
— 衝突や急ブレーキ等により車両より放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



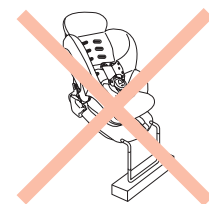
レッグサポートがお車のフロアに接しない、また一部のみ接している状態ではない。



クッション等の柔らかい素材で底上げされたフロアには使用しない。

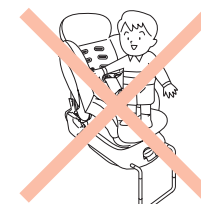


チャイルドシートを取り付けるお車のフロアに、ヒューズボックス、収納型シート、コンソールボックス、スペアタイヤの収納スペース等があり、これらがレッグサポートの下に有るようなフロアにはチャイルドシートを取り付けない。



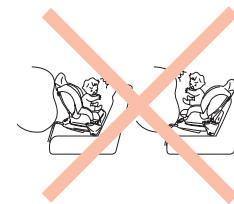
レッグサポートとお車のフロア間にクッション、座布団等を敷かない。

— 走行中に敷物が移動し固定できなくなり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



お子様を立たせたり、中腰、正座をした状態でチャイルドシートを使用しない。

— 衝突や急ブレーキ等により車両より放り出されたり、フロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



SRS エアバッグが装備された座席にチャイルドシートを取り付けられない。

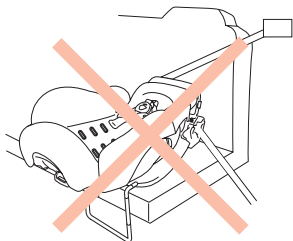
— 衝突等の緊急時に、エアバッグの作動により重大な傷害を受ける恐れがあります。 —

※チャイルドシートを取り付けるお車のフロアの形状・状態について不明な点は、各自動車メーカー又は、自動車販売店にお問い合わせください。



チャイルドシート使用時は、お子様を一人で車内に残さない。

— お子様の不特定の行動によりベルトが首に巻き付いたり、炎天下の車内の高温により生命に関わる重大な事故につながる恐れがあります。 —



後ろ向け取り付け時、ベッドで使用しない。

— 衝突や急ブレーキ等により重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



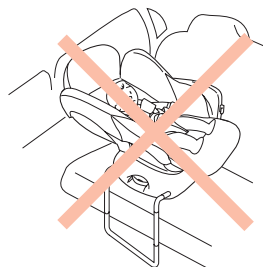
肩ベルトは、お子様の肩以外の位置で使用しない。

— 衝突や急ブレーキ等により首や頭等を締めつけられる恐れがあります。 —



ベッド状態でチャイルドシートの座面から足がでるお子様は、使用しない。

— 衝突や急ブレーキ等により強い圧迫等を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



ベッド状態での使用は車両の進行方向に対し直角に頭を中央側にして取り付けてください。後ろ向き取り付け、前向き取り付けでは、ベッド状態で使用しない。

— 衝突や急ブレーキ等により強い圧迫等を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



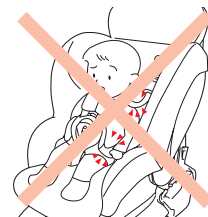
チャイルドシートは一人用です。ふたり以上で使用しない。

— 衝突や急ブレーキ等により強い圧迫等を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



ベッド横向け使用時、お子様を拘束したままリクライニングを起こさないでください。

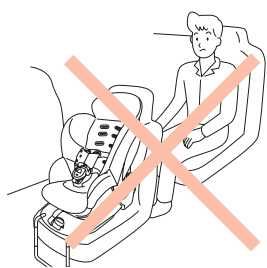
— お子様は圧迫され重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



肩ベルト、腰ベルトは、ねじれ、ゆるんだ状態で使用しない。また、腰ベルトは骨盤上以外で着用しない。(腰ベルトは骨盤上に低く下げて着用する。)

⚠ 警告 (けいこく)

WARNING



2ドア、3ドア車及び1ボックス車等、乗降時に通路になる座席にチャイルドシートを取り付けない。

——衝突等の緊急時に、内部の人が脱出できず重大な事故につながる恐れがあります。——



チャイルドシートの底面の一部分にクッション、座布団等を敷かない。

——走行中に敷物が移動し固定できなく危険になる恐れがあります。——



チャイルドシートを使用中、お子様にバックルボタンを触らせない。

——バックルがはずれ危険になる恐れがあります。——



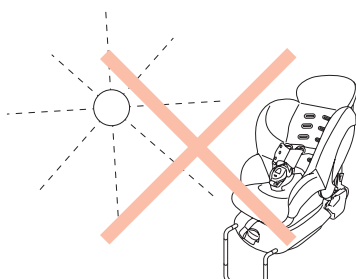
肩ベルト、股ベルトに傷、損傷、キ裂、焦げた状態で使用しない。

——衝突や急ブレーキ等により重大な傷害を受ける恐れがあります。——



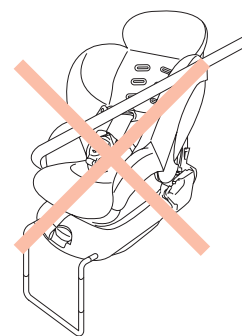
お車を走行中にチャイルドシートの操作(ベルト調整、リクライニング操作等)を行わない。

——運転手が操作すると走行している自動車に事故になる恐れがあります。道路交通法違反(前方不注意)になります。——



チャイルドシートを直射日光にさらさない。(特に駐車時)

——バックル等が熱くなり、火傷の恐れがあります。——
火傷をしないように、熱くないことを確認のうえお子様を座らせてください。



改造したり取扱い説明書以外の方法で取り付けない。

——衝突や急ブレーキ等により危険になる恐れがあります。——

必ずお読みください。衝撃や急ブレーキ等の緊急時に、チャイルドシートの性能を充分発揮できない原因になりますので必ず守ってください。

⚠ 注意 (ちゅうい) CAUTION

- * お車の座席が皮仕様の場合は、直接取り付けないこと。
—— 皮シートが、損傷を受けないようチャイルドシートと座席の間に保護シート(薄いゴムマット等)等をご使用ください。——
- * シートカバー内部のクッション材を取り外したり、他の物と交換したり、やぶれた状態で使用しない。
—— 衝突等の緊急時に、お子様の安全を守るための機能が充分発揮できないだけでなく生命に関わる重大な危険になる恐れがあります。——
- * お子様に乗っていないチャイルドシートは、確実に固定するか、トランク等に収納すること。
—— 衝突や急ブレーキ等により移動し、車両内外の人にぶつかる恐れがあります。——
- * お子様に乗らなくても、タンクはバックルにはめておくこと。
- * お子様にチャイルドシートを取り付けさせたり、操作させない。
- * 車のタンクがチャイルドシートの角に接触した状態で使用しないこと。
- * チャイルドシートを取り付ける場合は、お車のシートの可動部やドアに挟まないこと。
—— 火の近くや、炎天下の車中に放置しない。
—— 樹脂が変形し性能を維持できなくなります。——
- * バックルに水やジュース等をかけないこと。
- * シートカバーがやぶれた状態や、ネジやナットが緩んだり脱落した状態で使用しない。
- * その他、チャイルドシートの故障の原因となるようなこと。

禁止事項

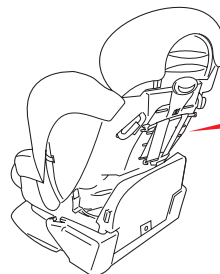
チャイルドシートは、一度でも強い衝撃を受けた場合は、外見上の破損がなくても絶対に使用しないでください。また、次のような使用は絶対にしないでください。

🚫 禁止 (きんし) PROHIBITION

- * 事故などで強い衝撃が加わった後の使用。
- * 落下、放り投げ等による強い衝撃が加わった後の使用。
- * ネジ、ナット等はずしての使用。
- * シートカバーやクッション材を外しての使用。
- * 子供の遊び道具としての使用。
- * 保護者、介護者等が椅子等腰掛けとしての使用。
- * 屋外に放置し雨等にさらした後の使用。
- * 分解・組立・改造(他の部品等と交換)しての使用。
- * その他、チャイルドシート(自動車用品一年少者保護装置)の目的以外での使用。

警告ラベルについて

チャイルドシートには、ご使用上の情報を記入した「警告ラベル」を背面に貼付しています。



⚠ 危険

- 体重2.5kg以上～18kg以下、身長49cm以上～105cm未満のお子様以外に使用しない。
- チャイルドシートが確実に固定できない座席では使用しない。
- チャイルドシートのバックルをはずして使用しない。
- ベッド状態以外で横向けに使用しない。
- お子様を立たせたり、中腰、正座をした状態でチャイルドシートを使用しない。
—— 衝突や急ブレーキ等により車両より放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります——
- SRSエアバッグが装備された座席にチャイルドシートを取り付けない。
—— 衝突等の緊急時に、エアバッグの作動により重大な傷害を受ける恐れがあります。——
- チャイルドシート使用時は、お子様を一人で車内に残さない。
—— お子様の不特定の行動によりベルトが首に巻き付いたり、炎天下の車内の高温により生命に関わる重大な事故につながる恐れがあります。——
- レッグサポートがお車のフロアに接しない状態で使用しない。
—— 衝突や急ブレーキ等により放り出されたり、フロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。——

お子様の大きさ

- ★お子様の体重を認知し、成長度合いを見極めて判断してください。
- ★体重 2.5kg 以上～ 18kg 以下、身長 49cm 以上～ 105cm 未満のお子様を使用できます。

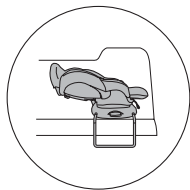
チャイルドシートの取り付け方を選択する場合、お子様の体重と状態が決定的な決め手になります。参考年齢の範囲及び身長は、およその見当で述べたものです。お子様の体重に合わせて取り付けてください。

●お子様への心遣い

- お子様が最初にお車に乗ったその時から、**チャイルドシート（シートベルト）を習慣にして例外をもうけないようにしてください。**
- お子様がチャイルドシートに座ったときは、ご褒美を上げてください。
- お子様は後席へ**、助手席ではお子様の動作が気になり運転の妨げになるだけでなく、運転装置にさわりの事故につながる恐れがあります。
- 長いドライブの時には、定期的に休憩を取って、**お子様の気分転換**をはかってください。
- お車の中では**同乗者も必ずシートベルト**をしてください。

(A) 横向け取り付け——

- 体 重— **2.5kg 以上～ 8kg 未満**
身 長— 49cm 以上～ 65cm 未満
参考年齢— 新生児～ 6ヶ月頃
そ の 他— あおむけに寝かせた時、肩ベルト、腰ベルトが体にフィットすること。
マモールSを使用してください。



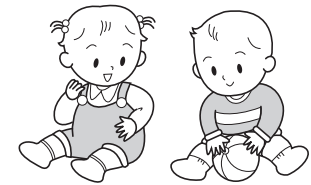
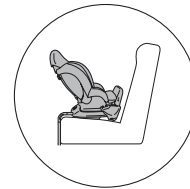
- * 新生児とは、出生から生後 4 週間までの赤ちゃんのことです。
赤ちゃんの体重や発達状況等をしっかりとご認識の上、チャイルドシート&ベッドを正しく選び、正しくご使用ください。
アプリカのチャイルドシート&ベッドを使用できる「新生児」とは出生体重 2500g 以上かつ在胎週数 37 週以上の赤ちゃんです。
出生体重が 2500g 未満の赤ちゃんは、体重が 2500g 以上、かつ在胎週数プラス出生後の週数が 37 週以上という条件を満たした上で、お医者さまにご相談の上ご使用ください。

* 参考 WHO（世界保健機構）の定義及び母子保険法昭 40 法 141

- △ 危険：横向け取り付けでは、ベッド状態以外で使用しない。
—— 衝突や急ブレーキ等により車両より放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。——
- △ 警告：ベッド状態でチャイルドシートの座面から足が出るお子様は、使用しない。
—— 衝突や急ブレーキ等により強い圧迫などを受け重大な傷害を受ける恐れがあります。——

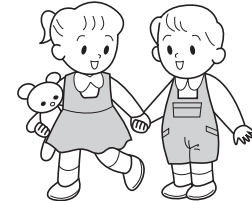
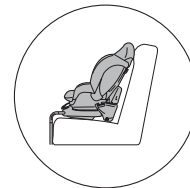
(B) 後ろ向け取り付け ——

- 体 重— **7kg 以上～ 10kg 未満**
身 長— 65cm 以上～ 75cm 未満
参考年齢— 生後 6ヶ月頃～ 12ヶ月頃
そ の 他— 首が安定し、一人座りのできるお子様。



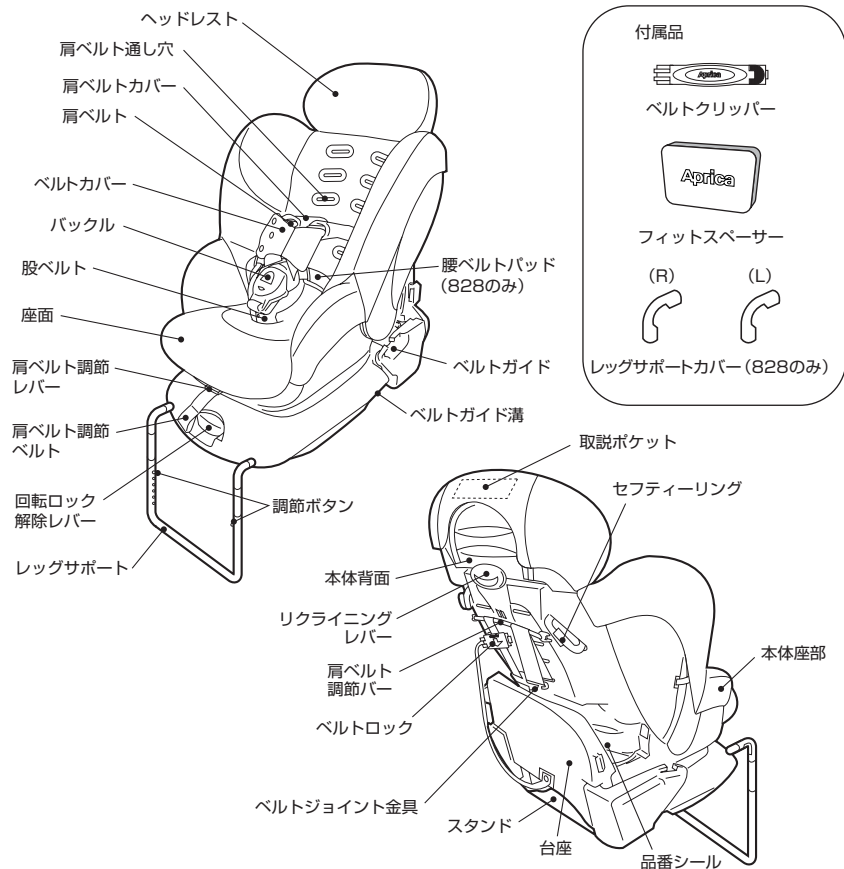
(C) 前向き取り付け——

- 体 重— **9kg 以上～ 18kg 以下**
身 長— 75cm 以上～ 105cm 未満
参考年齢— 1才頃～ 4才頃
そ の 他— お子様を座らせた時、後頭部がヘッドレストの上端部より下になること。
左右のタンクがバックルへ差し込めること。



- △ 危険：SRS エアバッグが装備された座席にチャイルドシートを取り付けない。
—— 衝突等の緊急時に、エアバッグの作動により重大な傷害を受ける恐れがあります。——

各部の名称



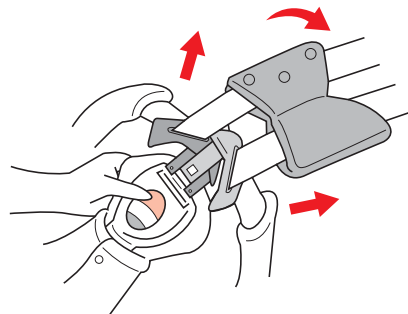
特徴

- 3段階フルリクライニング
- ムービングシート
- 快適ヘッドメカ
- ワンタッチ長さ調節肩ベルト

チャイルドシートは、お子様の安全を守るための機能を備えておりますが、これらの機能は事故により、お子様の受けるダメージを軽減する為のものであり、事故から無損で守ることはできません。

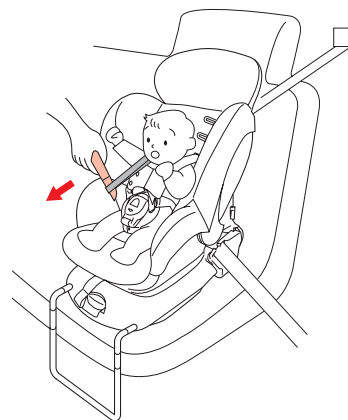
緊急の場合には

緊急の時



緊急の時にはあわてずに、バックルのプレスボタンを指で押し、タングをバックルから離しベルトアジャスターカバーを開き、お子様を降ろしてください。

バックルからタングが抜けにくい時



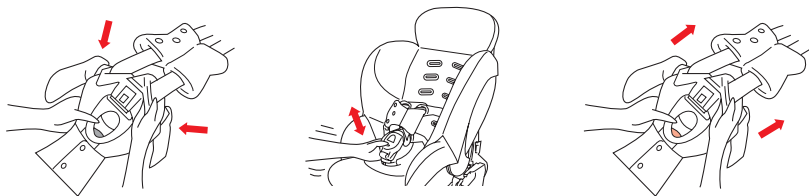
バックルからタングが抜けにくい時は、チャイルドシートの肩ベルトを刃物等で切り、お子様を降ろしてください。

使用前の点検・準備

点検

- ★当製品は、車両内でお子様のために使用するものです。
- ★使用前には必ず各部を点検してください。

*バックル



- ①左右のタングを組み合わせ、バックルの差し込み口へ差し込みます。(インジケーターの色が赤から青に変わったことを確認します。)
- ②股ベルトカバーの上部を手前に2～3回引き、外れないことを確認します。
- ③バックルの「PRESS」ボタンを押し、左右のタングが外れることを確認してください。(インジケーターが赤色になります。)

△注意：ベビー&チャイルドシートの縫製品、カバーが破れたりほつれたりした状態で使用しないこと。

△注意：ベビー&チャイルドシートの表皮は十分な耐久性を持たせてありますが、通常の使用範囲でもご使用頻度により部分的に生地が擦り切れることがあります。このような場合は、保証請求の範囲ではありませんのでご理解ください。

*クッション

シートカバーを外した時等にクッションのやぶれを目で見て確認してください。

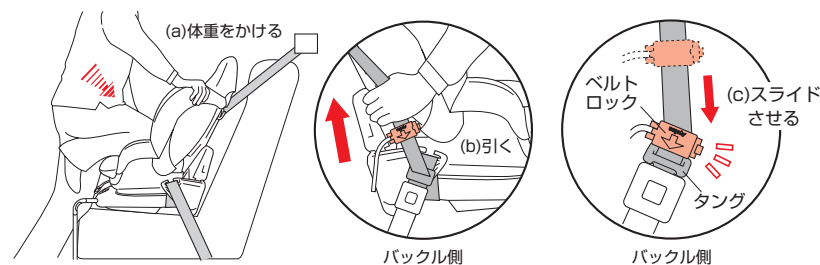
△注意：チャイルドシートのクッションがやぶれた状態で使用しないこと。

*肩ベルト、股ベルト

肩ベルト、股ベルトに傷、損傷、キ裂、焦げ等がないことを目で見て確認してください。

△警告：肩ベルト、股ベルトに傷、損傷、キ裂、焦げのある状態で使用しない。衝突や急ブレーキ等により重大な損傷を受ける恐れがあります。—

ベルトロックの使用方法



- ①チャイルドシートをお車のシートへ押し付けるように斜め下に体重を掛けながら、
- ②タングから出た緩んだシートベルトを真上に強く数回引き、ベルトロックを取付けます。
- ③ベルトロックを矢印の方向にスライドさせ、タングに当たるまで押し下げます。

●ベルトロックがシートベルトに噛み込み、固くて外すことが出来ない場合

- ①始めに、お車のタングをバックルから外します。
- ②ベルトロックを矢印の方向に少しスライドさせます。
- ③ロックレバーを外します。

上記の方法でシートベルトの噛み込みが無くなり取り外しやすくなります。

●ベルトロックは、お車のシートベルトに対して斜めに取付られたり、一方に片寄らないよう中央部にお取り付けください。

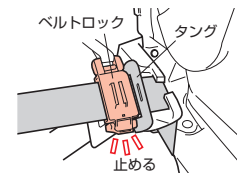
△注意：お車の中には、シートベルトが厚いためにベルトロックを止め、スライド操作が困難な車種があります。

●ベルトロックのスライド操作が困難な場合

- ①②は通常の使用方法と同じです。

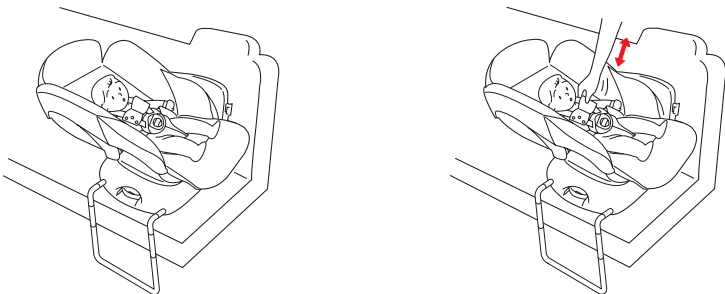


- ③シートベルトを水平に保ちます。

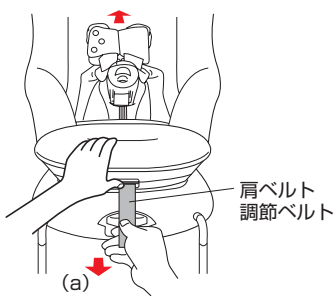


- ④ベルトロックの矢印側のはしをタングに当て止めます。

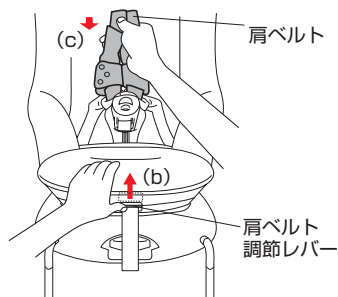
ベルトの長さ調節



- ① 本体に、お子様をベッド状態で寝かせ、または、チャイルドシート状態で座らせます。
- ② 肩ベルト、腰ベルトは、ネジレのないように着用させる。
- ③ 肩ベルトを一度引き出し、戻します。



- ④ 肩ベルトをしめる時は、(a) 肩ベルト調節ベルトを引きます。



- ⑤ 肩ベルトをゆるめる時は、(b) 肩ベルト調節レバーを上げて (c) 肩ベルトを引き出します。

万一、破損・異常が発生した場合、又は発見した場合は、そのまま使用せず、必ず当社サービス員の点検・修理を受けてください。

★チャイルドシートのベルトの取り付け位置をお子様の体格に合うように調節し、正しく装着すること。

チャイルドシートの取り付け方を選択する場合、お子様の体重と状態が決定的な決め手になります。参考年齢及び身長範囲はおよその見当で述べたものです。

肩ベルト通し穴の位置

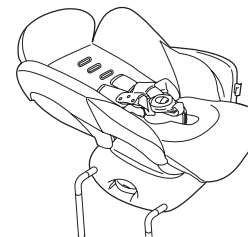
肩ベルト通し穴 (1、2、3段目)

- 参考年齢：新生児～6ヶ月頃

(出生体重2.5kg未満は、新生児の条件を満たした上で、お医者さまにご相談の上ご使用ください。)

- 体 重：2.5kg以上～8kg未満
- 身 長：49cm以上～65cm未満

〈ベッド横向け使用〉



肩ベルト通し穴 (3、4段目)

- 参考年齢：生後6ヶ月～12ヶ月頃
- 体 重：7kg以上～10kg未満
- 身 長：65cm以上～75cm未満

〈後ろ向け使用〉



肩ベルト通し穴 (4、5段目)

- 参考年齢：1才頃～4才頃
- 体 重：9kg以上～18kg以下
- 身 長：75cm以上～105cm未満

〈前向け使用〉

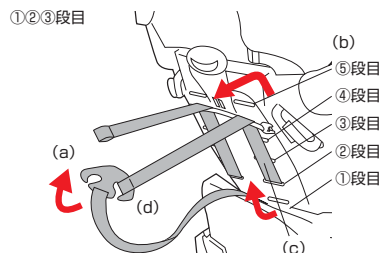


△注意：肩ベルト通し穴の位置は、必ず、お子様の肩よりも高い位置にします。

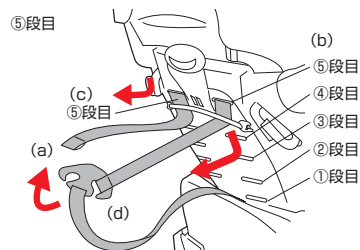
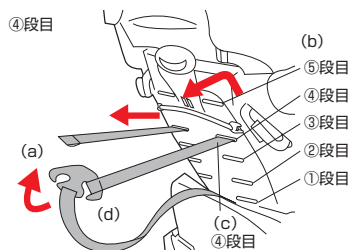
※お子様の体重・状態で乗せ方が決まります。P15の“お子様の大きさ”を参照してください。

肩ベルト通し位置変更の方法

前ページを目安にして、肩ベルトを本体背面の肩ベルト通し穴位置、及び肩ベルト調節バーを通してベルトジョイント金具に止めてください。



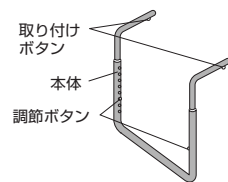
- (a) ベルトジョイント金具からベルトを外します。
- (b) 肩ベルト通し穴の位置を変更します。
- (c) 左右のベルトを本体背面の肩ベルト調節バーに通します。
①、②、③段目は下から上に通し、外に向けて出します。



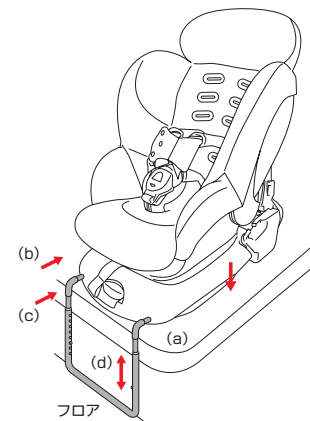
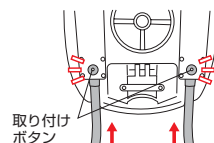
- (c) ④段目のみ調節バーに通さず、そのまま下へおろします。
- (c) ⑤段目は上から下に調節バーの内側を通します。
- (d) 左右のベルトをベルトジョイント金具に止めます。
※左右の肩ベルトは必ず同じ通し穴位置にします。

⚠ 警告：腰ベルトは骨盤上に低く下げて着用させる。
—— 衝突や急ブレーキ等により強い圧迫感を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。

レッグサポートの使用法



チャイルドシート裏側



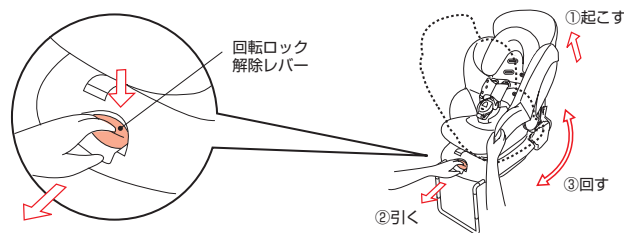
- (a) お車の後部座席にチャイルドシートを乗せます。
- (b) レッグサポート取り付けボタンを押しながらチャイルドシート本体に取り付けます。
- (c) 付属品のレッグサポートカバー(R・L)を取り付けてください。(828のみ)
- (d) レッグサポート脚部の調節ボタンを押しながら左右の穴位置を合わせてお車のフロアにレッグサポートの底面全体が確実に接するように調整します。この時、チャイルドシートの底面とお車の座席前部とスキ間は0～20mm未満であること。20mm以上になる場合は、レッグサポート本体を1段縮めてください。
- (e) レッグサポートが確実に取り付けられているか、取り付け部と調節部を引っ張ってロックが掛かっていることを確認してください。

⚠ 注意：レッグサポートの上部、脚部の調節穴位置を左右同じにしてください。
 ⚠ 危険：レッグサポートがお車のフロアに接しない、また一部のみ接している状態で使用しない。
 ⚠ 危険：チャイルドシートを取り付けるお車のフロアに、ヒューズボックス、収納型シート、コンソールボックス、スペアタイヤの収納スペース等があり、これらがレッグサポートの下に有るようなフロアにはチャイルドシートを取り付けない。
 ⚠ 危険：クッション等の柔らかい素材で底上げされたフロアには使用しない。
 —— 衝突や急ブレーキ等により放り出されたり、フロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 ——
 ⚠ 危険：レッグサポートとお車のフロアの間クッション、座布団等を敷かない。
 —— 走行中に敷物が移動し固定できなく危険になる恐れがあります。 ——
 ※チャイルドシートを取り付けるお車のフロアの形状・状態について不明な点は、各自動車メーカー又は、自動車販売店にお問い合わせください。

操作方法

本体の方向転換の方法

★お子様の成長に合わせて取り付け方向を決めます。(シート前後、ベッド左右)



- ①リクライニングは、いちばん起こした状態にしてください。
 - ②回転ロック解除レバーを手前に引いて本体を回します。
 - ③ご使用される位置でレバーをはなすとカチッと固定されます。
 - ④レバーが戻り確実に固定されているか、本体をゆすって確認してください。
- ※操作がかたい(重い)ときは、シート本体の上部を軽くゆすってください。

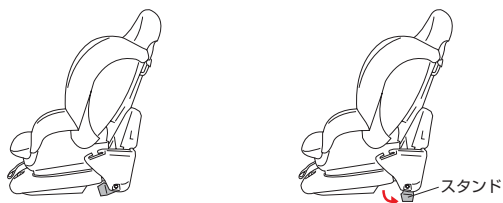
〈回転ロック解除レバー〉

台座に親指をあて、レバーを手前に引いてください。

※レバー中央にレバーロックボタンがありますので、ロックボタンを押しながらレバーを引いてください。

△ 注意：方向転換は、必ず車を止めて行ってください。
操作時、手や指をはさまないように気を付けてください。

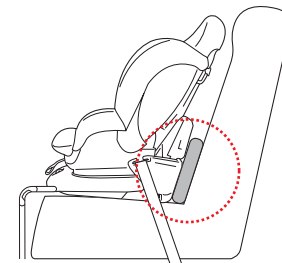
スタンドの使用方法



大腿部、臀部をホールドする為に落とし込んである座席等で、チャイルドシートの底面が座席に接する部分が一部の場合、スタンドを立てて使用してください。

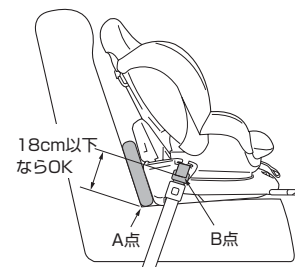
△ 注意：スタンドを使用してもチャイルドシートの底面が座席に接する部分が一部の場合はその座席にはチャイルドシートを使用しないでください。

フィットスペーサーの使用方法



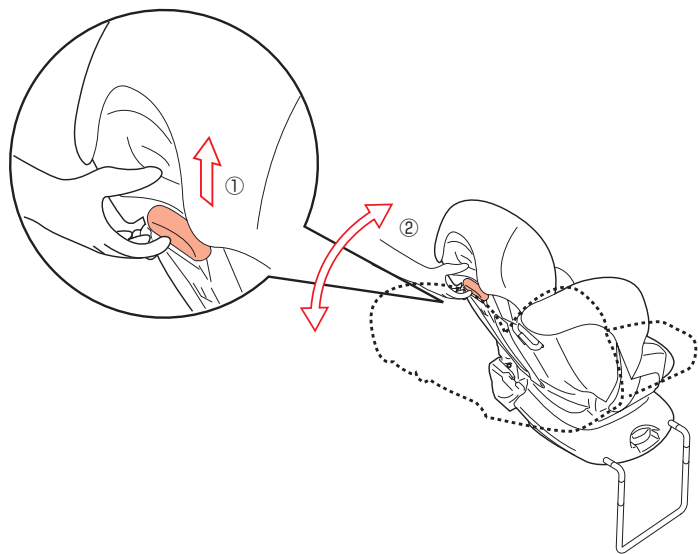
座席がリクライニングできない、また腰部をホールドする為に落とし込んである座席等でチャイルドシートの台座背部が座席に接する部分が一部の場合、チャイルドシートが極端にぐらつく場合のみフィットスペーサーを使用してください。

△ 注意：フィットスペーサーを使用してもチャイルドシートの台座背部が座席に接する部分が一部の場合は、その座席にはチャイルドシートを使用しないでください。



バックルの長さが15cmより長くても、フィットスペーサーを装着させることによりA点(お車のシートの座部と背もたれの交点)からB点(タンクのベルト通し位置)までの長さが18cm以下であれば取り付けできます。

リクライニングの方法



- ①リクライニングレバーを手前に引き上げてください。
- ②リクライニング角度を調節してください。(3段階)
- ③ご使用される位置でレバーをはなすとカチッと固定されます。
- ④リクライニングレバーが戻り、確実に固定されているか、背もたれ部分を前後にゆずって確認してください。

- △ 警告：リクライニングのロックが確実に入っていること。
——衝突や急ブレーキ等により重大な傷害を受ける恐れがあります。——
- △ 注意：リクライニング操作は、必ず車を止めて行ってください。
- △ 注意：操作時、手や指をはさまないように気を付けてください。

本体取り付け方向によるリクライニング調節

	横向け取り付け	
③段目のみ 使用可能		
	後ろ向け取り付け	
②段目のみ 使用可能		
	前向け取り付け	
①～②段 調節可能		

※前向け取付け時、お車の後部座席の背もたれの状態により2段目を使用できない場合もあります。

- △ 危険：上記以外の調節位置では使用できません。
——衝突や急ブレーキ等により重大な傷害を受ける恐れがあります。——

操作方法

マモールSの取り付け方

●このマモールSは、新生児・乳児の頭部をより安定させ、衝撃を軽減するものです。

- △ **危険**：チャイルドシート使用時は、保護者はお子様より目を離さないこと。
— お乳をもどしたり、車内の温度等により生命に関わる重大な事故につながる恐れがあります。 —
- △ **警告**：授乳後30分ぐらいは、お車に乗せない。
— 振動等によりお乳をもどす恐れがあります。 —
- △ **注意**：ドライブ時は、お子様の体温と車内温度に注意してください。
- △ **注意**：他の物と交換したり、やぶれた状態で使用しない。
- △ **注意**：他の製品や他社製品への使用は責任を負いかねます。
- △ **注意**：マモールSは、ベッド時のみ使用し、ベッド状態でのご使用期間は、必ずご使用ください。

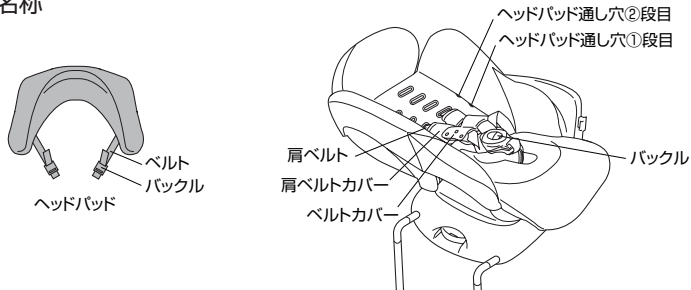
★マモールSには2種類があります。お買い上げの商品仕様に合わせてお読みください。

【マモールS 669】

※お子様の発育には個人差がありますので、お子様の発達状況や身長に合わせて調節してください。
次の表はマモールSを調節する目安です。

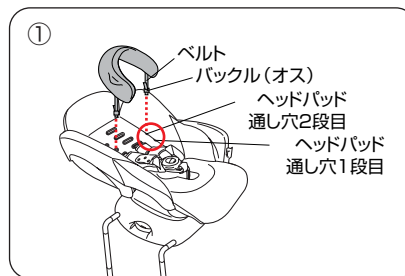
発達状況	ヘッドパッド	ヘッドパッド通し穴
新生児期	有	1段目
首が安定する頃	有	1段目
首が安定した以降	有	2段目

各部の名称

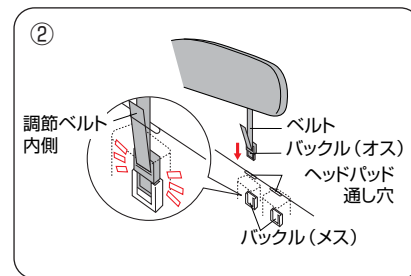


取り付け方

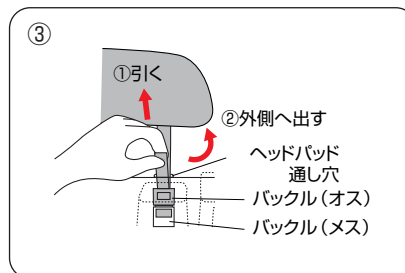
★ヘッドパッド取り付け時は、お子様の発育に合わせて取り付け位置を決定してください。



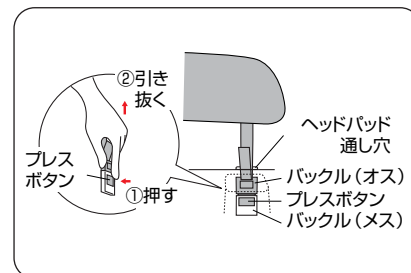
①リクライニング角度を3段目（ベッド状態）にして、ヘッドパッドバックル（オス）を本体ヘッドパッド通し穴1段目又は2段目に通します。



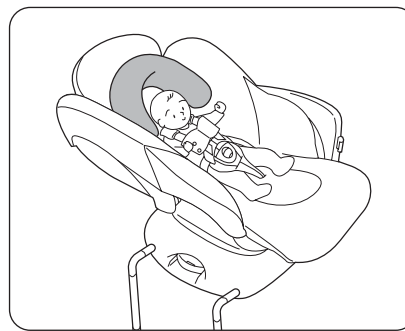
②バックル（オス）をバックル（メス）に差し込みます。



③ヘッドパッドが固定するまでベルトの端を強く引き上げ、ベルトをヘッドパッドの外側に出します。



※ヘッドパッドをはずす時は、片手でプレスボタンを押してベルトを握るようにして引き上げます。



※ベッド状態でのご使用期間は、ヘッドパッドを必ずご使用ください。

操作方法

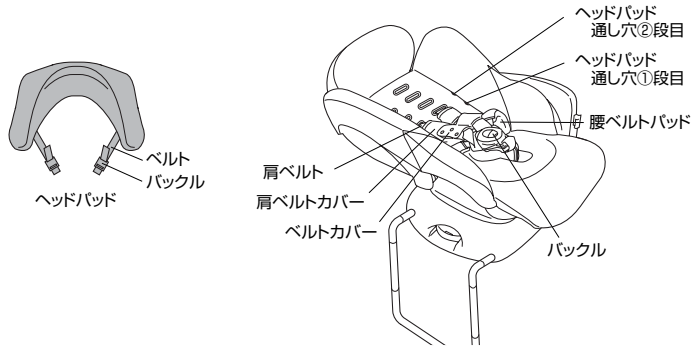
【マモールS 828】

次の表はマモールSを調節する目安です。

●お子様の発育には個人差がありますので、お子様の発達状況や身長に合わせて調節してください。

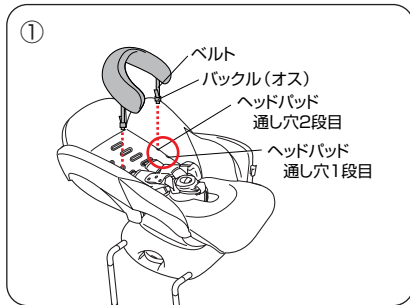
発達状況	ヘッドパッド*	腰ベルトパッド*	ヘッドパッド通し穴
新生児期	有	有	1段目
首が安定する頃	有	有	1段目
首が安定した以降	有	有	2段目

各部の名称

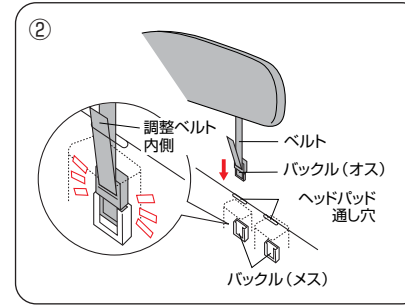


取り付け方

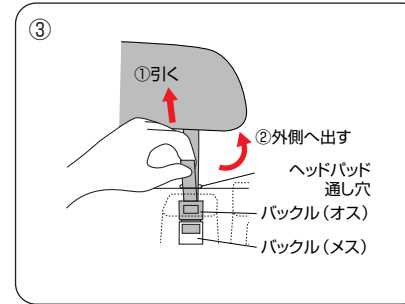
★ヘッドパッド取り付け時はお子様の発育に合わせて取り付け位置を決定してください。



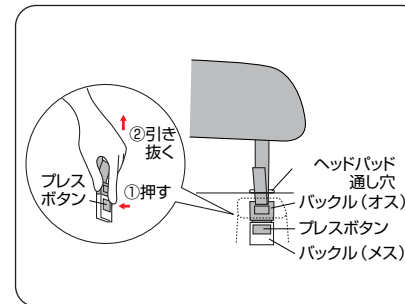
①リクライニング角度を3段目(ベッド状態)にして、ヘッドパッドバックル(オス)を本体ヘッドパッド通し穴1段目又は2段目に通します。



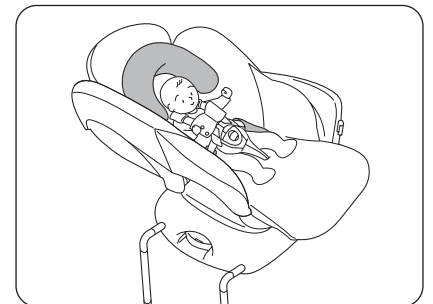
②バックル(オス)をバックル(メス)に差し込みます。



③ヘッドパッドが固定するまでベルトの端を強く引き上げ、ベルトをヘッドパッド外側に出します。



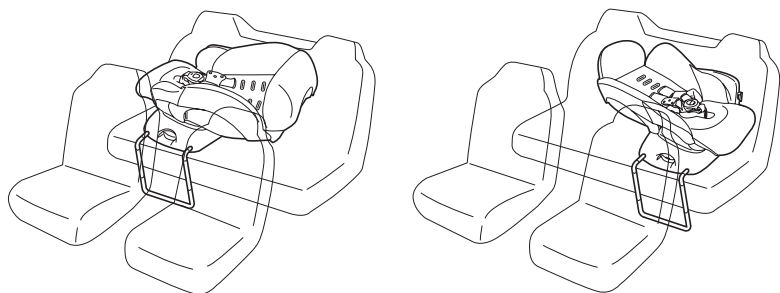
※ヘッドパッドをはずす時は、片手でプレスボタンを押してベルトを握るよう引き上げます。



※ベッド状態での使用期間は、ヘッドパッド、腰パッドは必ずご使用ください。
※腰パッドは、後ろ向き・前向きでもご使用ください。

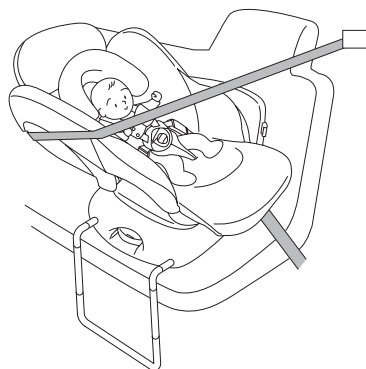
車体への取り付け方法

後部座席横向け



ベッド状態での使用は車両の進行方向に対し直角に頭を中央側にして取り付けてください。

△ 注意：肩ベルトの位置は、必ず、お子さまの肩よりも高い位置にしてください。



体 重—2.5kg～8kg 未満
身 長—49cm 以上～65cm 未満
参考年齢—新生児～6カ月頃

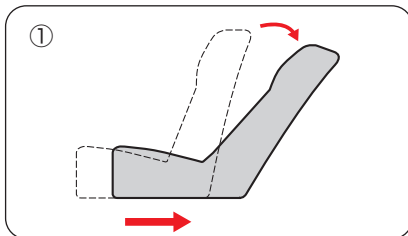
〔出生体重2.5kg未満は、新生児の条件を満たした上で、お医者さまにご相談の上ご使用ください。〕

そ の 他—あおむけに寝かせた時、肩ベルト、腰ベルトが体にフィットすること。
マモールSを使用してください。

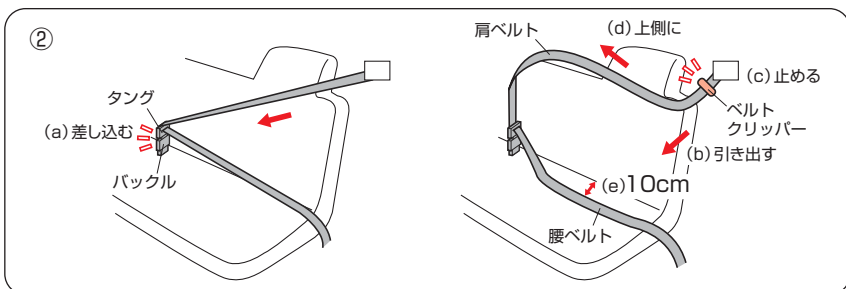
- △ 危険：レッグサポートがお車のフロアに接しない、また一部のみ接している状態で使用しない。
—衝突や急ブレーキ等により放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。—
- △ 危険：チャイルドシートを取り付けるお車のフロアに、シューズボックス、ヒューズボックス、収納型シート、コンソールボックス、スペアタイヤの収納スペース等があり、これらがレッグサポートの下に敷かれるようなフロアにはチャイルドシートを取り付けない。
- △ 危険：クッション等の柔らかい素材で底上げされたフロアには使用しない。
—衝突や急ブレーキ等により放り出されたり、フロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。—
- △ 危険：レッグサポートとお車のフロアの間クッション、座布団等を敷かない。
—走行中に敷物が移動し固定できなく危険になる恐れがあります。—
※チャイルドシートを取り付けるお車のフロアの形状・状態について不明な点は、各自動車メーカー又は、自動車販売店にお問い合わせください。
- △ 危険：チャイルドシートの台座とお車の座席がフィットせず安定しない場合は、他の座席に取り付けてください。
—衝突や急ブレーキ等により放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。—
- △ 危険：お子様をベッドに寝かせた場合は、保護者は目を離さないこと。
—お乳をもどしたり、車内の温度等により生命に関わる重大な事故につながる恐れがあります。—
- △ 危険：助手席では、横向け取り付けをしないこと。
—お車の運転に支障を及ぼし、自動車事故になる恐れがあります。
- △ 危険：横向け取り付けでは、ベッド状態以外で使用しない。
体重2.5kg～8kg以下、身長49cm以上～65cm未満のお子様以外に使用しない。
—衝突や急ブレーキ等により車両より放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。—
- △ 危険：SRSエアバッグが装備された座席にチャイルドシートを取り付けない。
—衝突時の緊急時に、エアバッグの作動により重大な傷害を受ける恐れがあります。—
- △ 警告：授乳後30分くらいは、お車に乗せない。
—お乳をもどす恐れがあります。—
- △ 警告：同乗者は、特に1才未満のお子様から目を離さない。
—生命に関わる重大な事故につながる恐れがあります。—
- △ 警告：ベッド状態でチャイルドシートの座面から足がでるお子様は、使用しない。
—衝突や急ブレーキ等により強い圧迫等を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。—
- △ 注意：ドライブ時は、お子様の体温と車内の温度に注意してください。

車体への取り付け方法

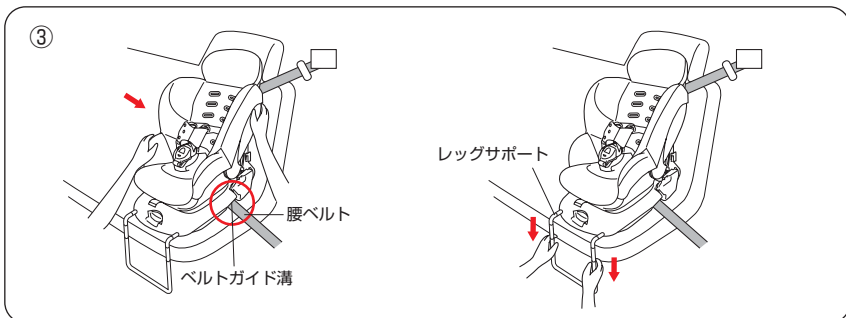
後部座席横向けの乗せ方



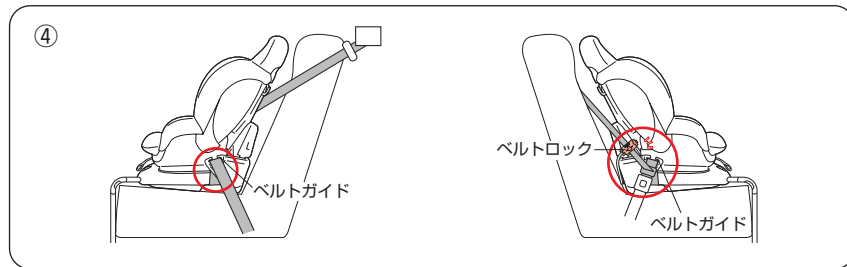
① お車の後部座席が前後にスライドできる場合は、座席を一番後ろの位置までスライドさせます。また、座席がリクライニング付きの場合は、リクライニングを少し寝かせた状態で取り付けます。



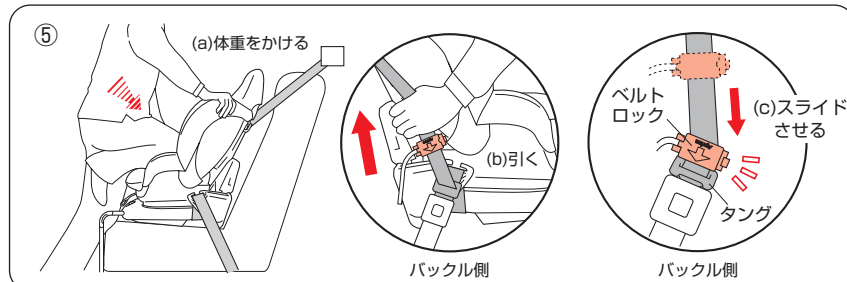
② (a) お車のタングをバックルにカチッと音がするまで確実に差し込みます。
(b) シートベルトをすべて引き出し、(c) ベルトクリッパーで仮止めします。
(d) 肩ベルトをシートの上側に、(e) 腰ベルトをシートの背もたれから10cm手前にネジレがない様に整えておきます。



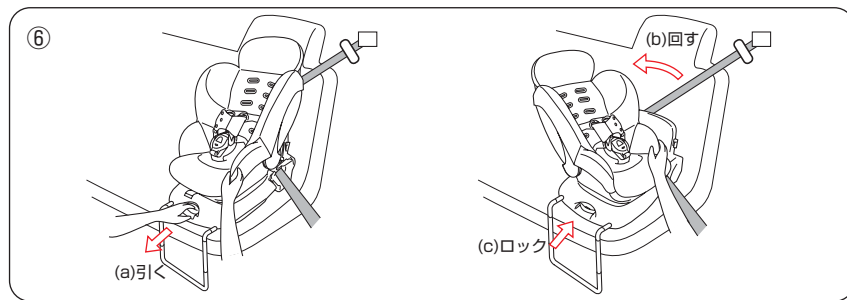
③ チャイルドシートを前向きに乗せ、ベルトガイド溝と腰ベルトを合わせます。この時レッグサポートをお車のフロアに接するよう調整します。
※ P24 レッグサポートの使用方法を参照してください。



④ ベルトガイドに腰ベルトを通し (左右)、ベルトロックを仮止めます。

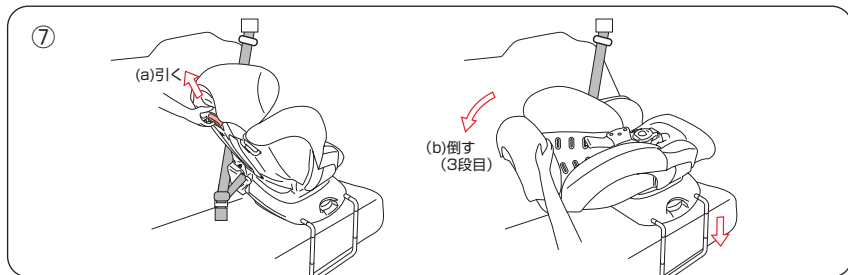


⑤ (a) チャイルドシートをお車のシートへ押し付けるように斜め下に体重を掛けながら (b) タングから出た緩んだシートベルトを真上に強く数回引き、ベルトロックを取付けます。(c) ベルトロックを矢印の方向にスライドさせ、タングに当たるまで押し下げます。※スライドが困難な時は P20 「ベルトロックのスライドが困難な場合」をご参照ください。

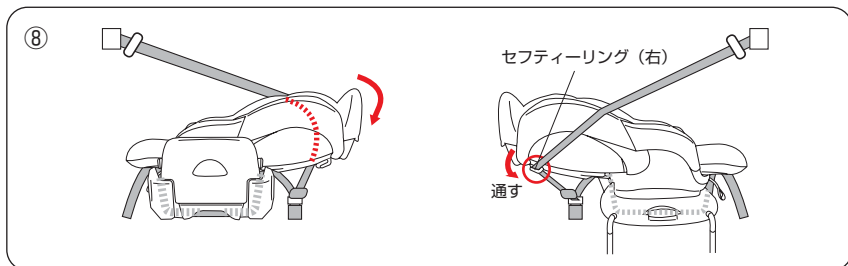


⑥ 回転ロック解除レバーを手前に引いて本体を横向けに回転させ、レバーをはずすとカチッと固定されます。ヘッドレストが、車内中央よりに来るようにします。

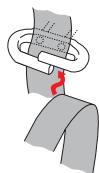
車体への取り付け方法



- ⑦リクライニングレバーを引き上げ、リクライニングで角度を3段階（ベッド状態）にし、レッグサポートをお車のフロアに接するように再度調整します。この時チャイルドシートの底面とお車の座席前部とのスキ間がなく、また極端なしずみ込みがないか確認してください。



- ⑧チャイルドシートのセフティーリング（右）にお車のシートベルトを通し、ネジレがない様に整えます。（ベッドの向きが図の方向と逆の場合、セフティーリングは左側を使用します。）

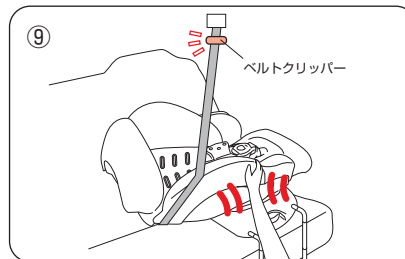


お車の肩ベルトをセフティーリングに通す方法

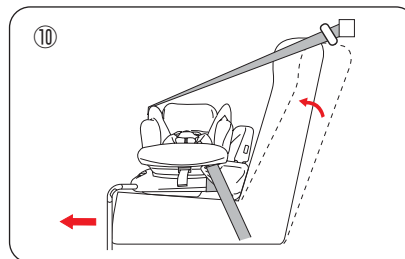
1. お車の肩ベルトをセフティーリングの隙間から内側に通してください。
2. 肩ベルトが完全にセフティーリングの内側にあることを確認してください。

△ 危険：チャイルドシートが、確実に固定できない座席では使用しない。
—— 衝突や急ブレーキなどにより車両より放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。——

△ 注意：セフティーリングにお車の肩ベルトを通したままチャイルドシートを回転させないでください。

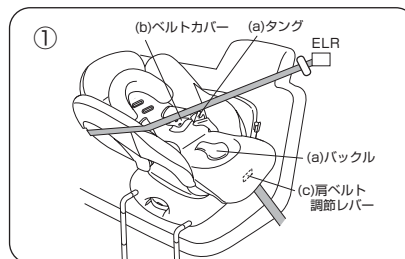


- ⑨仮止めのベルトクリッパーをはずし、余分なシートベルトを巻き取らせます。A-ELR（チャイルドシート固定機構）付きシートベルトのみ図の様にシートベルト出口に再度ベルトクリッパーを取り付け、シート本体をゆすりシートベルトの緩みが無い事を確認してください。

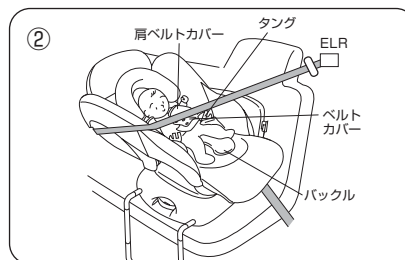


- ⑩取り付け完了後、お車の背もたれをチャイルドシートに強く当たるまで起こすと、より強く取り付けができます。また、座席が前後にスライドする場合、シートベルトがきつく張られる位置まで座席を前方に移動すると、強く取り付けができます。

お子様の乗せ方

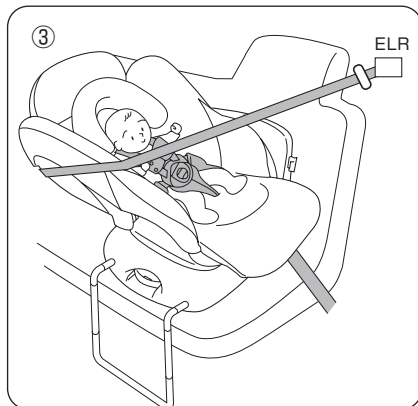


- (a) バックルのPRESS ボタンを押し、タングを両脇に寄せバックルを前に倒します。
- (b) ベルトカバーのフック（3ヶ所）をはずします。
- (c) 肩ベルト調節レバーを持ち上げ、肩ベルトを緩めます。



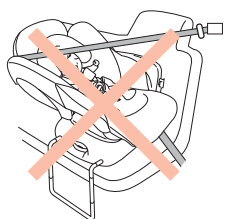
- (a) お子様の股間と股ベルトカバーが接する位置にお子様を寝かせます。
- (b) 肩ベルト通し穴（①②③段階目）が、お子様の肩より上にあることを確認します。
- (c) P22 肩ベルト通し穴の位置をご参照ください。お子様の手は肩ベルトの下にくぐらせます。

お子様の乗せ方



- バックルをお子様の腹部に当て、左右のタングをバックルへ確実に差し込みます。
- 腰ベルトがお子様の骨盤上に来るように低く下げてセットしてください。
- お子様の肩に肩ベルトカバーが当たる様にセットしてください。ベルトカバーのホックを3ヶ所確実に止めてください。
- 肩ベルト調節ベルトを引っ張り肩ベルトを締めてください。(肩ベルトとお子様の体の間に大人の指1本入る程度まで締めてください。)

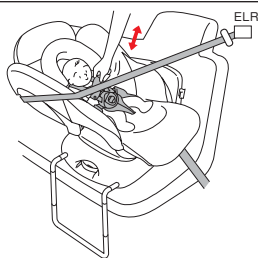
- △ 警告：肩ベルトは、お子様の肩以外の位置で使用しない。
 — 衝突や急ブレーキ等により首や頭等を締めつけられる恐れがあります。 —
- △ 警告：肩ベルト、腰ベルトは、ネジレ、緩みのないように着用させる。
 — 衝突や急ブレーキ等により強い圧迫等を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。 —



- △ 警告：お車のシートベルトをチャイルドシートのヘッドレストと背もたれ側芯部の間に通して使用しない。お車のシートベルトは必ず背もたれの側板上を通して使用してください。
 — 衝突や急ブレーキ等により、首や頭部により強い圧迫等を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。 —

横向け(ベッド状態)取付チェック

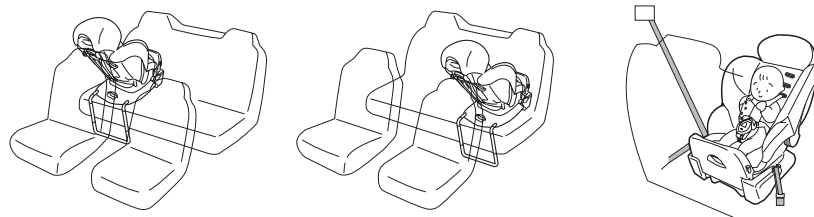
- チャイルドシートのヘッドレストに前後左右に力を掛け取り付けが安定している事を確認してください。
- ベルトロックが確実に取り付けられ、緩みがない事を確認してください。
- シートベルトがセフティーリングを確実に通っているか確認してください。



★お子様の乗車時は、お車の急発進、スピード、急ブレーキはひかえ、左折、右折のスピードは、お子様に影響を与えないように注意してください。

車体への取り付け方法

後部座席後ろ向け

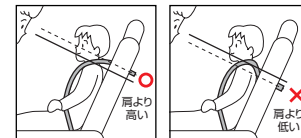


- △ 注意：肩ベルトの位置は、必ず、お子さまの肩よりも高い位置にしてください。

体 重—7kg～10kg
 身 長—60cm以上～75cm未満

参考年齢—生後6カ月頃～12カ月頃

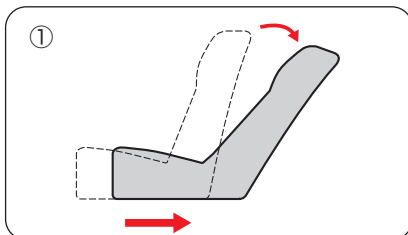
そ の 他—首が安定し、一人座りのできるお子様。



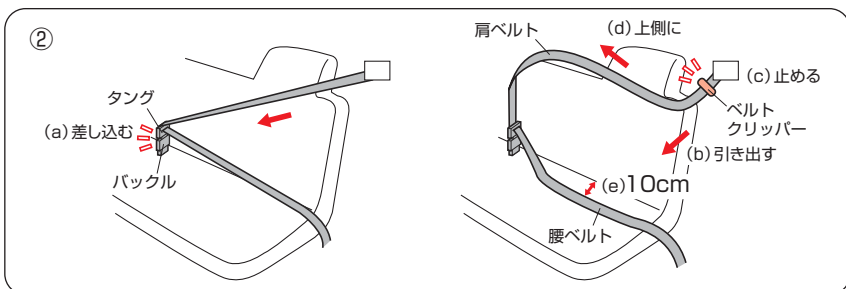
- △ 危険：レッグサポートがお車のフロアに接しない、また一部のみ接している状態で使用しない。
 — 衝突や急ブレーキ等により放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —
- △ 危険：チャイルドシートを取り付けるお車のフロアに、シューズボックス、ヒューズボックス、収納型シート、コンソールボックス、スペアタイヤの収納スペース等があり、これらがレッグサポートの下に敷かれるようなフロアにはチャイルドシートを取り付けない。
- △ 危険：クッション等の柔らかい素材で底上げされたフロアには使用しない。
 — 衝突や急ブレーキ等により放り出されたり、フロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —
- △ 危険：レッグサポートとお車のフロアの上にクッション、座布団等を敷かない。
 — 走行中に敷物が移動し固定できなく危険になる恐れがあります。 —
 ※チャイルドシートを取り付けるお車のフロアの形状・状態について不明な点は、各自動車メーカー又は、自動車販売店にお問い合わせください。
- △ 危険：助手席では、横向け取り付けをしないこと。
 — お車の運転に支障を及ぼし、自動車事故による恐れがあります。 —
- △ 危険：後ろ向け取り付け時、ベッドで使用しない。
 — 衝突や急ブレーキ等により車両より放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —
- △ 危険：SRS エアバッグが装備された座席にチャイルドシートを取り付けない。
 — 衝突時の緊急時に、エアバッグの作動により重大な傷害を受ける恐れがあります。 —
- △ 注意：後ろ向けではマモールSの使用はできません。

車体への取り付け方法

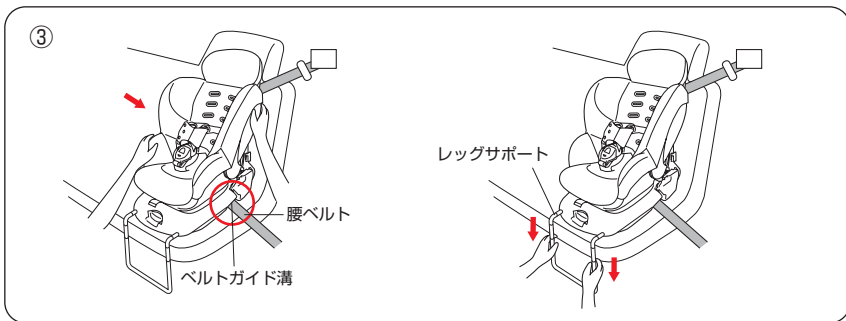
後部座席後ろ向けの乗せ方



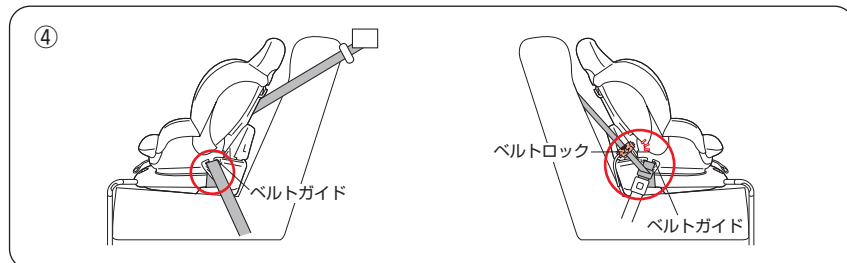
① お車の後部座席が前後にスライドできる場合は、座席を一番後ろの位置までスライドさせます。また、座席がリクライニング付きの場合は、リクライニングを少し寝かせた状態で取り付けます。



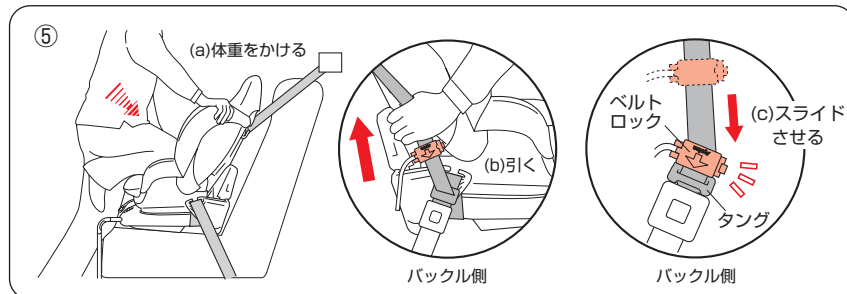
② (a) お車のタングをバックルにカチッと音がするまで確実に差し込みます。
 (b) シートベルトをすべて引き出し、(c) ベルトクリッパーで仮止めします。
 (d) 肩ベルトをシートの上側に、(e) 腰ベルトをシートの背もたれから10cm手前にネジレがない様に整えておきます。



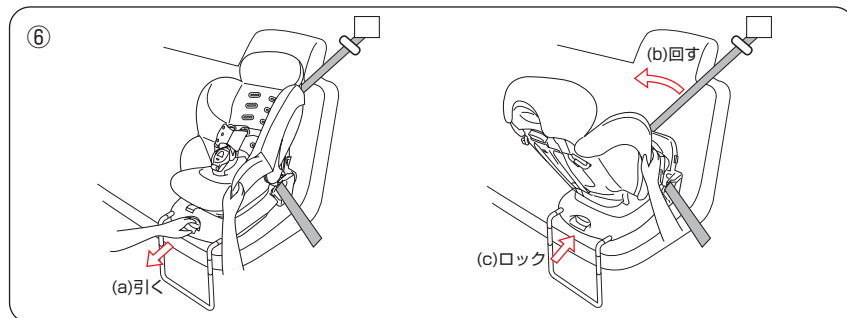
③ チャイルドシートを前向きに乗せ、ベルトガイド溝と腰ベルトを合わせます。この時レッグサポートをお車のフロアに接するよう調整します。
 ※ P24 レッグサポートの使用方法を参照してください。



④ ベルトガイドに腰ベルトを通し（左右）、ベルトロックを仮止めします。

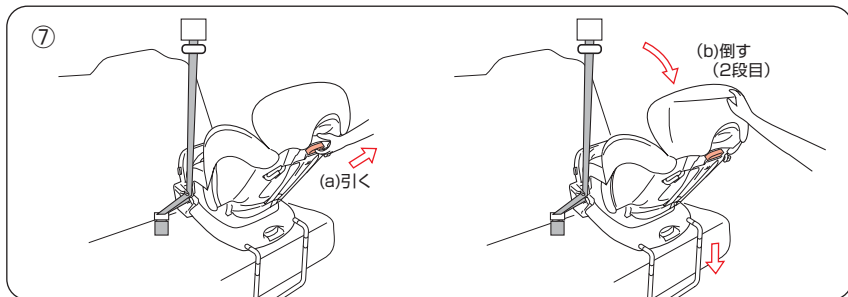


⑤ (a) チャイルドシートをお車のシートへ押し付けるように斜め下に体重を掛けながら (b) タングから出た緩んだシートベルトを真上に強く数回引き、ベルトロックを取付けます。(c) ベルトロックを矢印の方向にスライドさせ、タングに当たるまで押し下げます。※スライドが困難な時はP20「ベルトロックのスライドが困難な場合」をご参照ください。

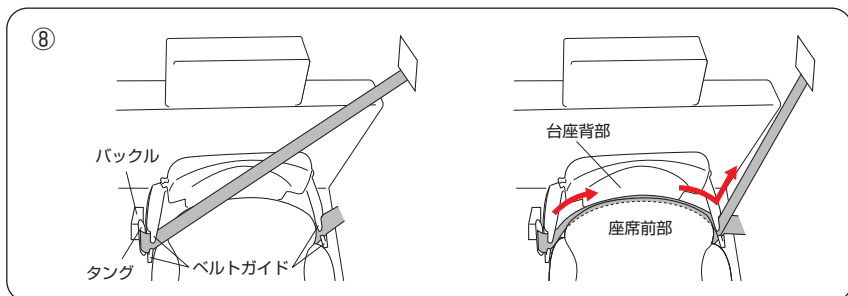


⑥ 回転ロック解除レバーを手前に引いて本体を後ろ向きに回転させ、レバーをはなすとカチッと固定されます。

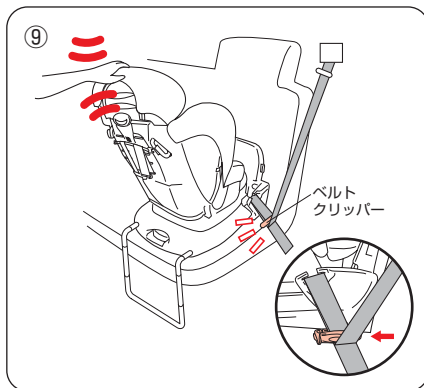
車体への取り付け方法



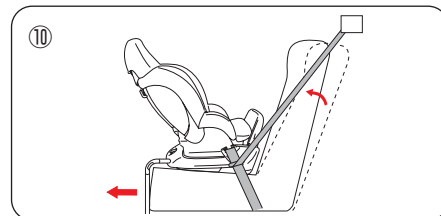
⑦リクライニングレバーを引き上げ、リクライニング角度を2段階目にし、レッグサポートをお車のフロアに接するように再度調整します。この時チャイルドシートの底面とお車の座席前部とのスキ間がなく、また極端なしずみ込みがないか確認してください。



⑧お車の肩ベルトを台座背部と座席前部の間を通しベルトガイドに固定します。



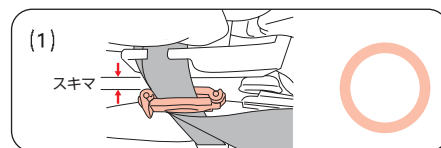
⑨シートベルトが巻き込まれないよう保持した後、仮止めのベルトクリッパーをはずします。(洗濯バサミ等を使用すると、容易に保持できます。)次に、肩ベルトを腰ベルトに重ねて、ベルトクリッパーで矢印の方向からたばねます。(拡大図をご覧ください。)その際、ベルトクリッパーは、ベルトガイドから離して取り付けてください。【(ベルトクリッパーの取り付け方)をご覧ください。】その後、シート本体をゆすりシートベルトの緩みが無い事を確認してください。



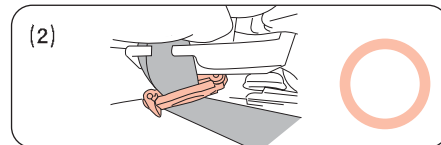
⑩取り付け完了後、お車の背もたれをチャイルドシートに強く当たるまで起こすと、より強く取り付けができます。また、座席が前後にスライドする場合、シートベルトがきつく張られる位置まで座席を前方に移動すると、強く取り付けができます。

ベルトクリッパーの取り付け方

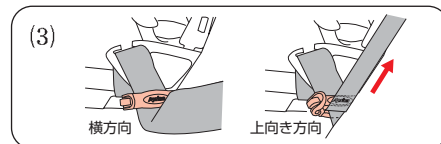
(1)(2)(3)いずれかの状態になるようにベルトクリッパーをセットしてください。



(1)ベルトクリッパーと、ベルトガイドの間にスキマができる場合。



(2)ベルトクリッパーが、ベルトガイドに一部当たってセットできる場合。

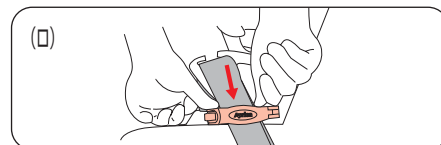


(3)肩ベルトを引き上げるとベルトクリッパーのApricaマークが横方向から上向き方向になることをご確認ください。

△注意：下記の場合は、セットをやり直してください。
—— (1)の状態でご使用になった場合、衝突等によりベルトクリッパーが外れ障害を負う恐れがあります。——

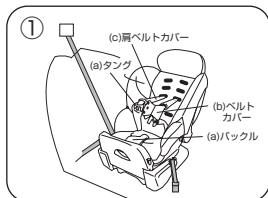


(1)ベルトクリッパーが、ベルトガイドにほぼ全面で当たってセットされ、肩ベルトを引き上げてもベルトクリップがほとんど動かない場合。

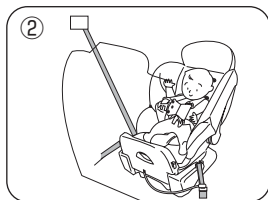


(2)ベルトクリッパーをお車の座面近くまで押し下げて、(1)(2)(3)いずれかの状態になるように直してください。

お子様の乗せ方



- ① (a) バックルのPRESS ボタンを押し、タングを両脇に寄せバックルを前に倒します。
- (b) ベルトカバーのホック (3ヶ所) をはずします。
- (c) 肩ベルト調整レバーを持ち上げ、肩ベルトを緩めます。



- ② (a) お子様の股間と股ベルトカバーが接する位置にお子様を座らせます。
- (b) 肩ベルト通し穴 (③④段目) が、お子様の肩より上にあることを確認します。
- (c) P22 肩ベルト通し穴の位置をご参照ください。お子様の手は肩ベルトの下にくぐらせます。



- ③ (a) バックルをお子様の腹部に当て、左右のタングをバックルへ確実に差し込みます。
- (b) 腰ベルトがお子様の骨盤上に来るように低く下げてください。
- (c) お子様の肩に肩ベルトカバーが当たる様にセットしてください。ベルトカバーのホックを3ヶ所確実に止めてください。
- (d) 肩ベルト調整ベルトを引っ張り肩ベルトを締めてください。(肩ベルトとお子様の体の間に大人の指1本入る程度まで締めてください。)

- ⚠ 警告：肩ベルトは、お子様の肩以外の位置で使用しない。
 — 衝突や急ブレーキ等により首や頭等を締めつけられる恐れがあります。 —
- ⚠ 警告：肩ベルト、腰ベルトは、ネジレ、緩みのないように着用させる。
 — 衝突や急ブレーキ等により強い圧迫等を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。 —

後向け取付チェック

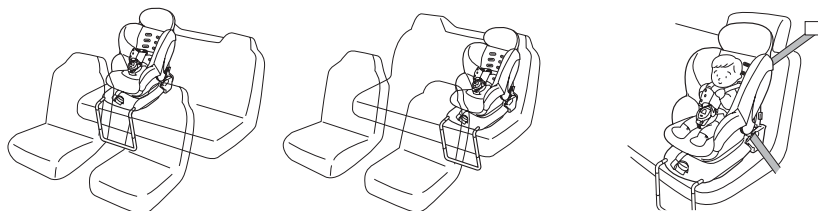
- ・チャイルドシートのヘッドレストに前後左右に力を掛け取り付けが安定している事を確認してください。
- ・ベルトロックが確実に取り付けられ、緩みがない事を確認してください。



★お子様の乗車時は、お車の急発進、スピード、急ブレーキはひかえ、左折、右折のスピードは、お子様に影響を与えないように注意してください。

車体への取り付け方法

後部座席前向け



⚠ 注意：肩ベルトの位置は、必ず、お子さまの肩よりも高い位置にしてください。

体 重—9kg～18kg
 身 長—75cm以上～105cm未滿
 参考年齢—1才～4才



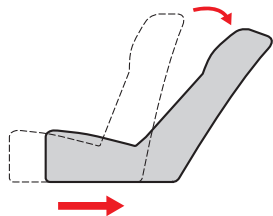
その他一お子様を座らせた時、後頭部がチャイルドシートの上端部又はヘッドレストの上端部より下になること。左右のタングがバックルへ差し込めること。

- ⚠ 危険：レッグサポートがお車のフロアに接しない、また一部のみ接している状態で使用しない。
 — 衝突や急ブレーキ等により放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —
- ⚠ 危険：チャイルドシートを取り付けるお車のフロアに、シューズボックス、ヒューズボックス、収納型シート、コンソールボックス、スペアタイヤの収納スペース等があり、これらがレッグサポートの下に敷かれるようなフロアにはチャイルドシートを取り付けない。
- ⚠ 危険：クッション等の柔らかい素材で底上げされたフロアには使用しない。
 — 衝突や急ブレーキ等により放り出されたり、フロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —
- ⚠ 危険：レッグサポートとお車のフロアの間クッション、座布団等を敷かない。
 — 走行中に敷物が移動し固定できなく危険になる恐れがあります。 —
 ※チャイルドシートを取り付けるお車のフロアの形状・状態について不明な点は、各自動車メーカー又は、自動車販売店にお問い合わせください。
- ⚠ 危険：助手席では、横向け取り付けをしないこと。
 — お車の運転に支障を及ぼし事故をおこす恐れがあります。 —
- ⚠ 危険：横向け取り付けではベッド状態以外で使用しない。体重2.5kg～18kg未滿、身長49cm以上～105cm未滿のお子様以外に使用しない。
 — 衝突や急ブレーキ等により車両より放り出されたりフロントガラスにぶつかり生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。 —
- ⚠ 危険：SRSエアバッグが装備された座席にチャイルドシートを取り付けない。
 — 衝突時の緊急時に、エアバッグの作動により重大な傷害を受ける恐れがあります。 —
- ⚠ 注意：前向けではマモールSの使用はできません。

車体への取り付け方法

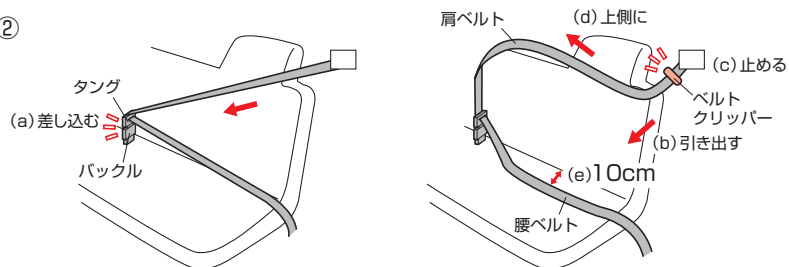
後部座席前向けの乗せ方

①



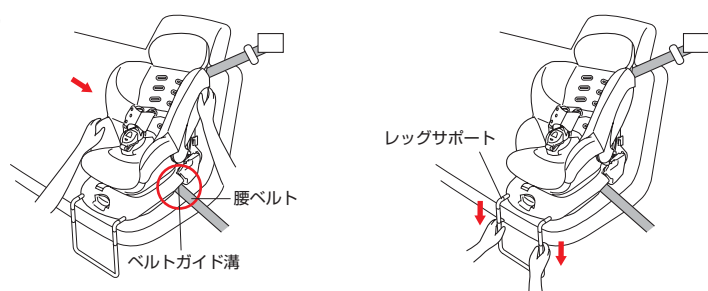
①お車の後部座席が前後にスライドできる場合は、座席を一番後ろの位置までスライドさせます。また、座席がリクライニング付きの場合は、リクライニングを少し寝かせた状態で取り付けます。

②



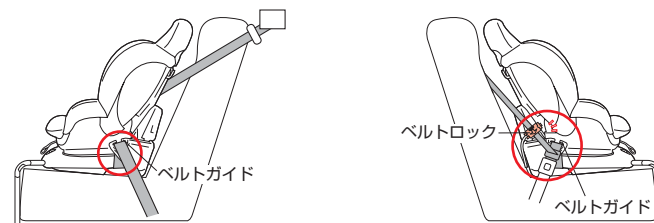
②(a) お車のタングをバックルにカチッと音がするまで確実に差し込みます。
 (b) シートベルトをすべて引き出し、(c) ベルトクリッパーで仮止めします。
 (d) 肩ベルトをシートの上側に、(e) 腰ベルトをシートの背もたれから10cm手前にネジレがない様に整えておきます。

③



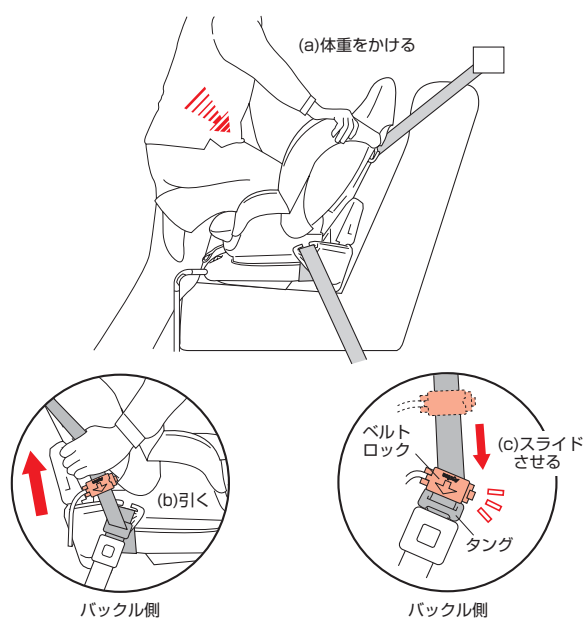
③チャイルドシートを前向きに乗せ、ベルトガイド溝と腰ベルトを合わせます。この時レッグサポートをお車のフロアに接するよう調整します。
 ※ P24 レッグサポートの使用方法を参照してください。

④



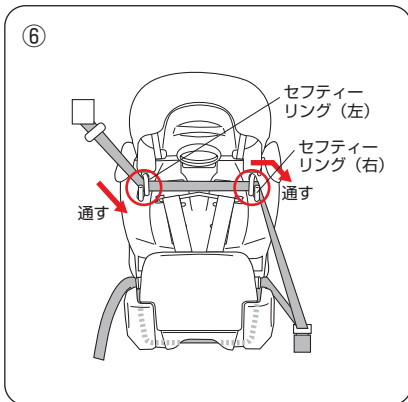
④ベルトガイドに腰ベルトを通し(左右)、ベルトロックを仮止めします。

⑤

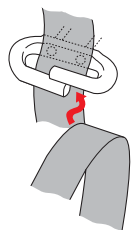


⑤ (a) チャイルドシートをお車のシートへ押し付けるように斜め下に体重を掛けながら (b) タングから出た緩んだシートベルトを真上に強く数回引き、ベルトロックを取付けます。(c) ベルトロックを矢印の方向にスライドさせ、タングに当たるまで押し下げます。※スライドが困難な時はP20「ベルトロックのスライドが困難な場合」をご参照ください。

車体への取り付け方法



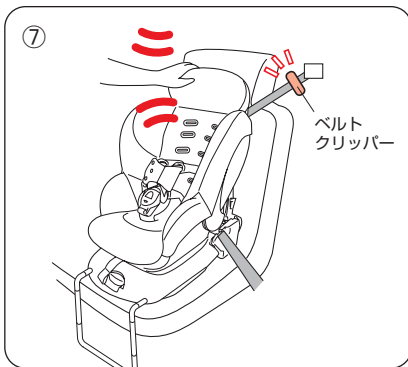
⑥チャイルドシートのセフティーリング（左右）にお車のシートベルトを通し、ネジレがない様に整えます。



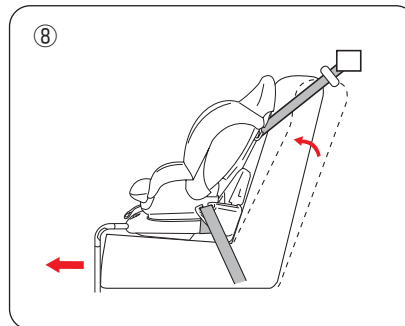
お車の肩ベルトをセフティーリングに通す方法

1. お車の肩ベルトを左右のセフティーリングの間から内側に通してください。
2. 肩ベルトが完全にセフティーリングの内側にあることを確認してください。

△ 注意：セフティーリングにお車の肩ベルトを通したままチャイルドシートを回転させないでください。

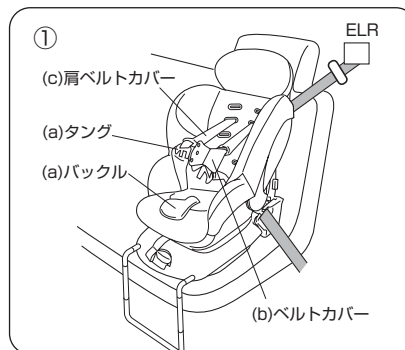


⑦仮止めのベルトクリッパーをはずし、余分なシートベルトを巻き取らせます。A-ELR（チャイルドシート固定機構）付きシートベルトのみ図の様にシートベルト出口に再度ベルトクリッパーを取り付け、シート本体をゆすりシートベルトの緩みが無い事を確認してください。

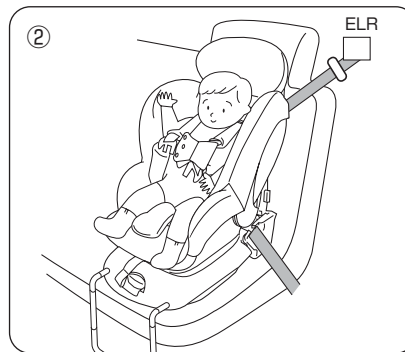


⑧取り付け完了後、お車の背もたれをチャイルドシートに強く当たるまで起こすと、より強く取り付けができます。また、座席が前後にスライドする場合、シートベルトがきつく張られる位置まで座席を前方に移動すると、強く取り付けができます。

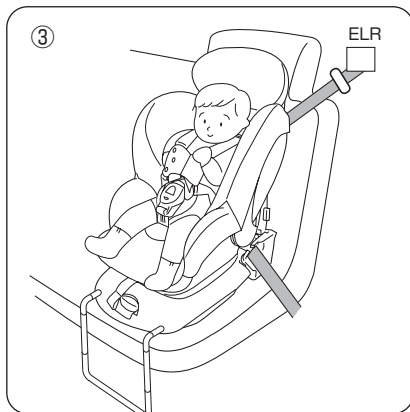
お子様の乗せ方



- ①
 - (a) バックルのPRESS ボタンを押し、タングを両脇に寄せバックルを前に倒します。
 - (b) ベルトカバーのフック（3ヶ所）をはずします。
 - (c) 肩ベルト調整レバーを持ち上げ、肩ベルトを緩めます。



- ②
 - (a) お子様の股間と股ベルトカバーが接する位置にお子様を座らせます。
 - (b) 肩ベルト通し穴（④⑤段目）が、お子様の肩より上にあることを確認します。
 - (c) P22 肩ベルト通し穴の位置をご参照ください。お子様の手は肩ベルトの下にくぐらせます。

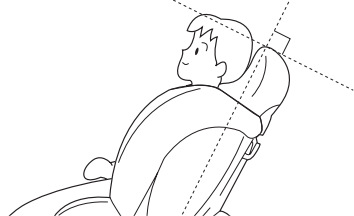
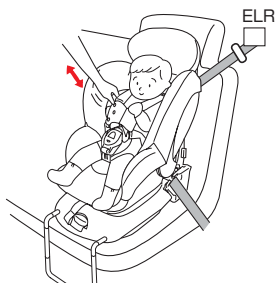


- (a) バックルをお子様の腹部に当て、左右のタングをバックルへ確実に差し込みます。
- (b) 腰ベルトがお子様の骨盤上に来るように低く下げてセットしてください。
- (c) お子様の肩に肩ベルトカバーが当たる様にセットしてください。ベルトカバーのフックを3ヶ所確実に止めてください。
- (d) 肩ベルト調節ベルトを引っ張り肩ベルトを締めてください。(肩ベルトとお子様の体の間に大人の指1本入る程度まで締めてください。)

- △ 警告：肩ベルトは、お子様の肩以外の位置で使用しない。
 ——衝突や急ブレーキ等により首や頭等を締めつけられる恐れがあります。——
- △ 警告：肩ベルト、腰ベルトは、ネジレ、緩みのないように着用させる。
 ——衝突や急ブレーキ等により強い圧迫等を受け重大な傷害を受ける恐れがあります。——

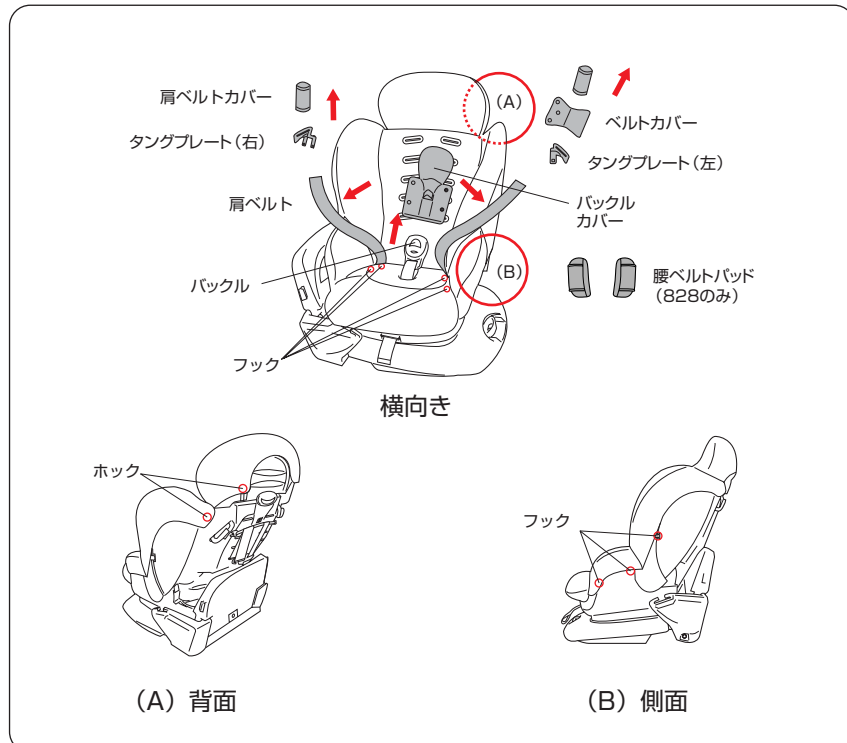
前向け取付チェック

- ・チャイルドシートのヘッドレストに前後左右に力を掛け取り付けが安定している事を確認してください。
- ・ベルトロックが確実に取り付けられ、緩みがない事を確認してください。
- ・シートベルトがセフティーリングを確実に通っているか確認してください。
- ・頭部重心位置（耳の上端部）がヘッドレストの上端部より下にあること。



★お子様の乗車時は、お車の急発進、スピード、急ブレーキはひかえ、左折、右折のスピードは、お子様に影響を与えないように注意してください。

シートカバーのはずし方

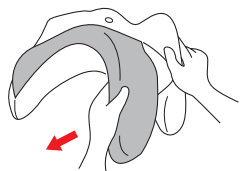


- ①バックルセンターのPRESS ボタンを押して左右のタングプレートをはずします。(詳しくはP19の点検をご参照ください。)
- ②本体を横向きにして、背面のベルトジョイント金具からベルトをはずし、肩ベルト通し穴から引き抜きます。(詳しくはP23の肩ベルト通し位置変更の方法をご参照ください。)
- ③肩ベルトから肩ベルトカバー、ベルトカバー（フック3ヶ所）、左右のタング、腰ベルトパッド（828のみ）をはずします。
- ④バックルカバーはフック2カ所をはずし、マジックテープをはずします。
- ⑤本体背面のヘッドレストからベルトフック2ヶ所、及び左右のフック2ヶ所をはずします。クッション材を残してめくってください。
- ⑥シートカバー腰部のフック3ヶ所を座面下側からはずします。
- ⑦本体左右のサイドカバーのクリップ4ヶ所を引き抜き、内側にあるフック4ヶ所をはずしてシートカバーを引き出します。

芯材の取り外し方

- ※お洗濯をされる際に芯材を取り外してください。
- ※芯材の取り付けは、取り外し方の逆の手順で行ってください。

ヘッドパッド



裏面のホックを開き、芯材を取り外してください。

シートカバーのお手入れ



液温は、30℃を限度とし、弱い押し洗いにしてください。（洗たく機は使用できません。）



ドライクリーニングは、しないでください。



塩素漂白剤は、使用しないでください。



干し方は、日陰げの平干しにしてください。



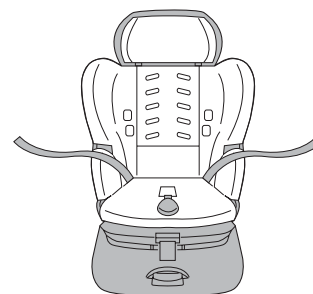
洗たく後、絞らないでください。



アイロン掛けは、しないでください。

⚠ 注意

内部のクッション材は、洗濯しないでください。クッション材の自然劣化による損傷は、保証請求の範囲ではありませんのでご理解ください。内部のクッション材を取り外したり、他の物と交換したり、やぶれた状態で使用しない。——衝突等の緊急時に、お子様の安全を守るための機能が充分発揮できないだけでなく生命に関わる重大な危険になる恐れがあります。——

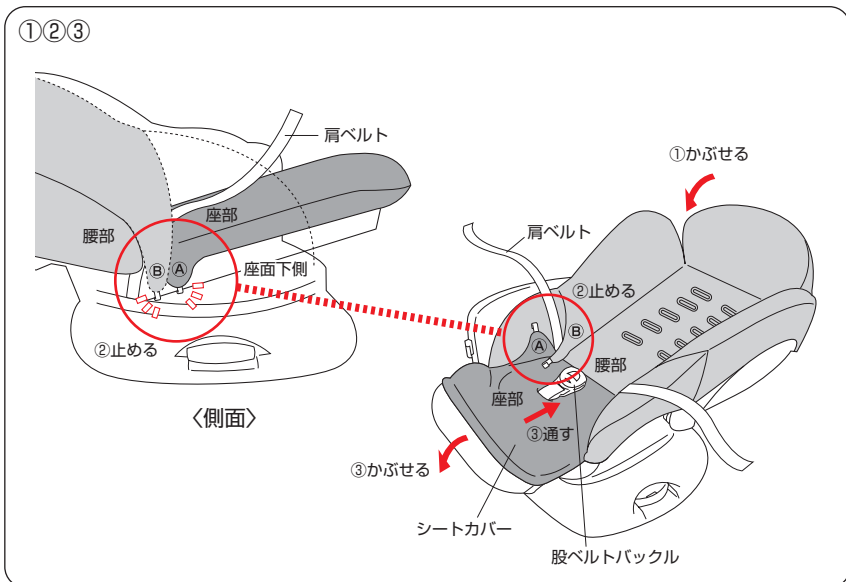


中のクッション材は、固定されておりますので取り外さないでください。

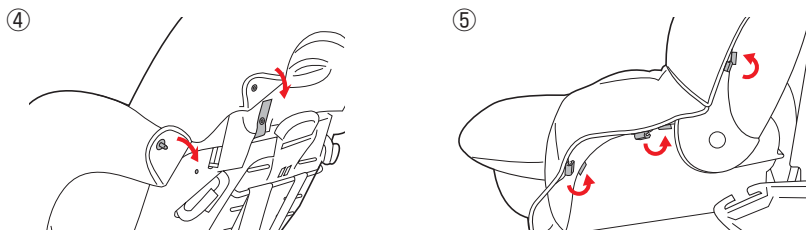
樹脂部分のお手入れ

樹脂とお車のシート生地等との摩擦による、ほこり等を吸着した場合は、化学ぞうきんで乾拭きしてください。水溶性の汚れ（果汁、ヨダレ、小水等）の場合は、40度前後のお湯にタオルを浸し、軽く絞って拭き取ってください。非水溶性の汚れ（牛乳、油脂、マヨネーズ等）の場合は、40度前後のお湯に中性洗剤を溶解し、汚れた部分をスポンジで軽くこすります。その後、冷水又は温水にタオルを浸し、軽く絞って充分に中性洗剤を拭き取ってください。

シートカバーの取り付け方

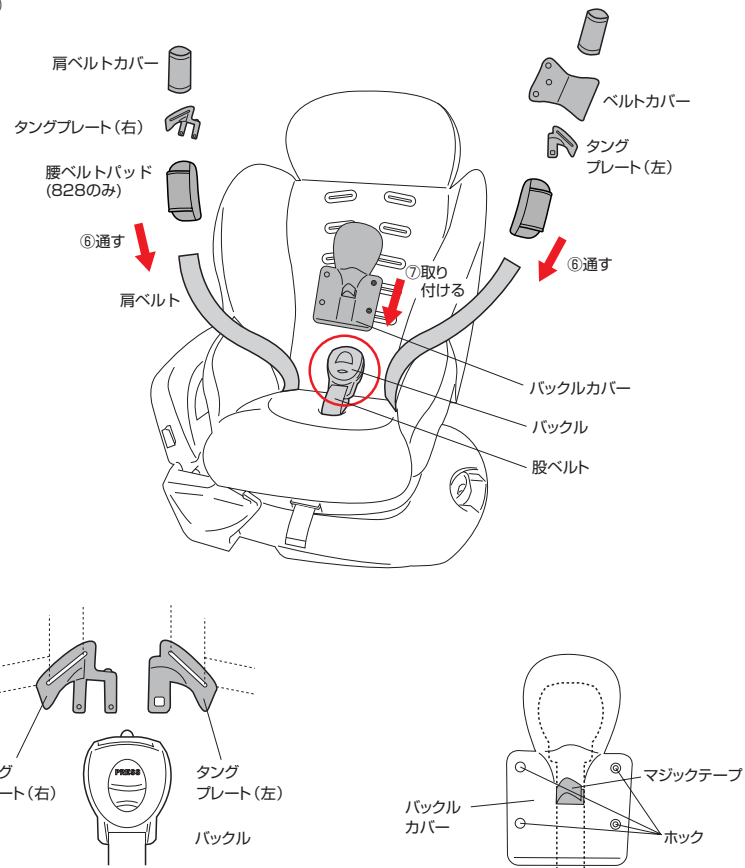


- ①シートカバーを本体の上部からかぶせて、肩ベルト、腰ベルト、股ベルト通し穴に合わせ、形を整えます。
- ②シートカバー座部のフックAを止め、肩ベルトが出ていることを確認し、腰部のフックBを座面下側に止めてください。
- ③股ベルト通し穴に股ベルトバックルを通し、座面カバーを座面にかぶせます。



- ④本体天面のヘッドレストのベルトフック2ヶ所、及び左右のフックを止めてください。
- ⑤本体左右のフック6ヶ所を差し込んで止めてください。

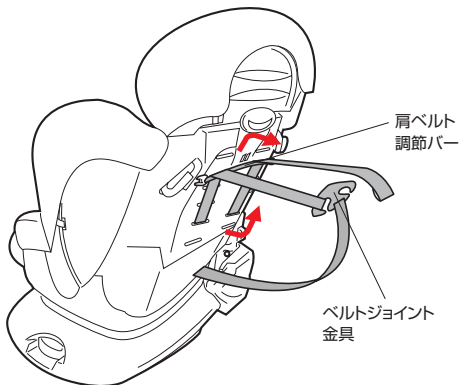
⑥⑦



- ⑥肩ベルトに腰ベルトカバー、タングプレート（左右、裏表を確認する）、ベルトカバー、肩ベルトカバーの順に通してセットします。
- ⑦股ベルトにバックルカバーを取り付け、マジックテープで股ベルトを止め、フックを止めます。

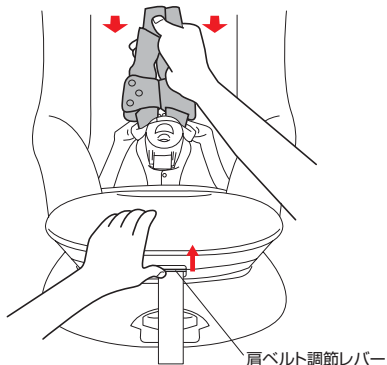
△注意：タングプレートの方を間違えないよう通してください。

⑧



⑧肩ベルトをベルト通し穴から後ろ側へ出し、肩ベルト調節バーに通してベルトジョイント金具に止めます。(詳しくはP23の肩ベルト通し位置変更の方法をご参照ください。)

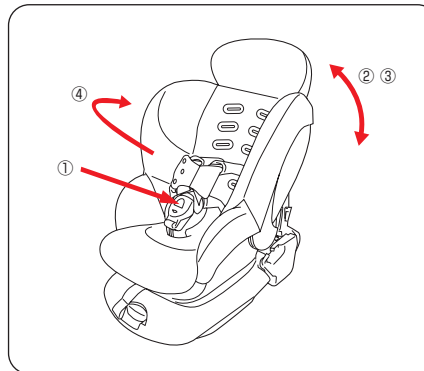
⑨



⑨肩ベルト調節レバーを持ち上げて肩ベルトを調節してください。

動作チェック

シートカバー取り付け後、各部の動作がスムーズに行えるか確認してください。



- ①バックルボタン操作
- ②リクライニング操作
- ③ヘッドレスト動作
(リクライニング連動)
- ④回転操作

保管方法

本体をポリ袋等に入れ、直接日光の当たらない、冷暗所に保管してください。

万一、破損・異常が発生した場合、又は発見した場合は、そのまま使用せず、当社サービス員の点検・修理を受けてください。

廃棄方法

地球環境のため、放置はしないでください。
お住まいの各自治体の指示にしたがい処分、廃棄してください。

アフターサービスについて

ご使用中に万一故障等が発生したり、点検中に発見した場合、部品の交換又は修理の必要が生じた場合、及び、その他異常を感じた場合は、使用を中止してお買い求めの店又は、当社サービス係までご連絡ください。